

平成29年度
武道等指導充実・資質向上支援事業
実践事例報告集

平成31年2月

スポーツ庁政策課学校体育室

本実践事例報告集の活用について

本実践事例報告集は、スポーツ庁が平成29年度の「武道等指導充実・資質向上支援事業」の成果を全国各地での取組の参考にさせていただくため、委託先の各教育委員会から提出された実践研究結果を取りまとめたものです。特に、地域の指導者の協力を得て、指導の充実や安全に配慮した指導方法の工夫などに取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目次

1. 実践事例

【柔道】

- ・地域の外部指導者とのチームティーチングによる柔道学習の実践例
男鹿市立潟西中学校（秋田県）・・・2
- ・地域の指導者と研修歴の浅い保健体育科教師が連携した柔道授業の実践
佐渡市立畑野中学校（新潟県）・・・4
- ・外部指導者と連携し、「礼儀作法」や「受け身」を習得することを通して、生徒全員が柔道本来の楽しさを実感できることを目指した実践例
津市立美杉中学校（三重県）・・・6
- ・専門的指導者との連携により、保健体育科教師の指導力向上が見られた実践例
浜田市立金城中学校（島根県）・・・8
- ・授業協力者と授業の在り方や生徒の実態等について綿密な打合せを行い、授業での指導効果を高めた実践例
美咲町立旭中学校（岡山県）・・・10
- ・柔道指導における、基本動作の習得と安全で楽しい授業づくり ～外部指導者との連携を通して～
三好市立池田中学校（徳島県）・・・12
- ・離島の極小規模校に柔道の指導者を派遣し、保健体育科担当教師の指導力向上を図った例
平戸市立大島中学校（長崎県）・・・14
- ・地域指導者と武道指導未経験の保健体育科担当教師が連携した、小規模校の実践例
徳之島町立尾母中学校（鹿児島県）・・・16

【剣道】

- ・授業協力者を活用した武道学習（剣道）の実践例
由利本荘市立鳥海中学校（秋田県）・・・18
- ・外部指導者の専門性を生かし、異学年の生徒が意欲的に練習や試合に取り組むための学習活動の充実を図った実践例
南砺市立井口中学校（富山県）・・・20
- ・武道用具等での安全確保を効果的に行い、意欲を高める剣道指導の工夫
－ 1・2年生における系統的な指導－
小松市立国府中学校（石川県）・・・22
- ・剣道における授業協力者とのチームティーチングにおける授業実践
吉野郡川上村立川上中学校（奈良県）・・・24

・ 外部指導者と教師の連携した剣道授業に関する研究 ～全学年男女共習授業における工夫～	三好市立西祖谷中学校（徳島県）	26
・ 地域指導者の活用を通して、剣道授業の充実を図った実践例	九重町立ここのえ緑陽中学校（大分県）	28
【相撲】		
・ 男女共習での相撲授業における実践例	阿南市立新野中学校（徳島県）	32
【柔道・少林寺拳法】		
・ 実技指導協力者の派遣を通して、臨時免許で保健体育科の授業を受け持つ教師による安全かつ効果的な柔道の授業実践例と多様な武道授業の展開	伊東市立対島中学校（静岡県）	34
【柔道・合気道】		
・ 実技指導協力者の活用による多様な武道授業の展開と教師の指導力を高めた実践例	沼津市立片浜中学校（静岡県）	36
【なぎなた】		
・ 体育授業（なぎなた）における基礎・基本の徹底 ～外部指導者から学び、伝えていくこと～	明石市立衣川中学校（兵庫県）	38
【弓道】		
・ 外部指導者を活用した、技能を高める効果的な弓道学習の実践	高原町立後川内中学校(宮崎県)	40
【ダンス】		
・ 全校でダンスに取り組み、子供の動きの高まり、教師の指導力の高まりをめざした実践例	真室川町立真室川あさひ小学校（山形県）	42
・ 地域の指導者による指導力向上実技研修会を開催し、教師の指導力を高めた実践例	京都府教育委員会	44
・ 教師の授業力を高める実践例 ～ダンス研修・ダンス授業研究会を通しての検証～	鳥根県教育委員会	46
・ 外部指導者を活用し、現代的なリズムのダンスの指導力を高めた授業実践例	吉野ヶ里町立東脊振中学校（佐賀県）	48
・ 創作ダンスの楽しさを実感させるため外部指導者と連携した授業実践例	延岡市立島野浦中学校（宮崎県）	52
【その他】		
・ 地域の指導者による実践的な指導により、教師のスキーについて指導力を高めた実践例	山形市立村木沢小学校（山形県）	54
・ 地域の指導者を器械運動の授業に活用し、児童のスキルアップと教師の指導力を高めた実践例	庄内町立余目第三小学校（山形県）	56
・ 校内研修において、運動環境づくりに取り組み、運動の楽しさを味わい進んで運動に関わる児童の育成を目指した実践例	伊勢崎市立宮郷第二小学校（群馬県）	58

- ・大学教員及び教師志望の大学生を体育・保健体育の授業に活用した「走運動プログラム」開発及び実践事例

長野県教育委員会・・・60

2. 参考資料

保健体育科における武道の安全管理の徹底について（依頼）（平成30年7月10日付け事務連絡）・・・65

1. 实践事例

地域の外部指導者とのチームティーチングによる柔道学習の実践例

学校名 男鹿市立潟西中学校（秋田県）1, 2年

全校児童生徒数 72名（男子33名 女子39名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0185（46）2330

学校メールアドレス kata-jhs@namahage.ne.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 柔道における専門性を有する地域の外部指導者とTT形式の授業形態で学習を展開することで、競技歴、指導歴の浅い教師の指導力を向上させる。
- (2) 外部指導者とTT形式で授業を構想し実施することで、安全性に配慮できるようにする。

2. 実践研究の概要

- (1) 競技歴、指導歴の浅い教師が一人で学習を進める際は、安全性の確保に多くの時間を割くことが予想され、生徒に技能を習得させ、個々へ対応することが十分にできず、武道の楽しさを味わわせ、技能の向上を図ることは難しい。
- (2) 専門性の高い外部指導者と協力し、TT形式で学習を展開することで、個々への対応がきめ細かに行える。ペアやトリオ学習を設定したり、話し合い活動や考える活動を構想したりする際に、グループを支援し見取ること及び安全性の確保が保障されるのではないかと。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 外部指導者との連絡・調整

- ① 単元全体計画の作成と共通理解の時間設定
- ② 授業開始前を使った打合せ、毎時間の流れや活動の重要ポイントの確認
- ③ 技の理合いを意識した技能の伝達

(2) 個々に対応した学習の展開

- ① 1単位時間の学習課題の設定（取、受）と、学習の流れが分かる板書の工夫
- ② 未習熟な生徒の意欲を高める、段階を踏まえたスモールステップによる指導
- ③ ペア、トリオ学習の活用による生徒同士の見合い、教え合う場の継続
- ④ 話し合い活動、考える活動の設定による意図的な学び合い
- ⑤ 役割を明らかにしたTT形式での学習の進め方の工夫
- ⑥ 学習シートを活用した振り返りの積み重ね

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 安全面では生徒の服装、髪型の留意点を徹底し、道場は清潔で適温を保つよう配慮した。
2. 学習では方向を指定した投げ技の取、受の練習を行った。
3. 実技前には危険な体の動きや使い方を示して注意を促し、技能の段階に合わせた姿勢を設定した。

○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者の活用により専門的な知識や技能が伝達され、意欲の向上と技能の高まりが見られた。
2. TTによる指導でつまづきの見られる生徒への個々の支援やグループ学習の見取りや声かけを手厚く行うことができたので、生徒の学び合いが深まった。

○ 研究内容

【TTによる専門性を生かした指導】

個々の状況を見取り、的確で専門的なアドバイスをもらう



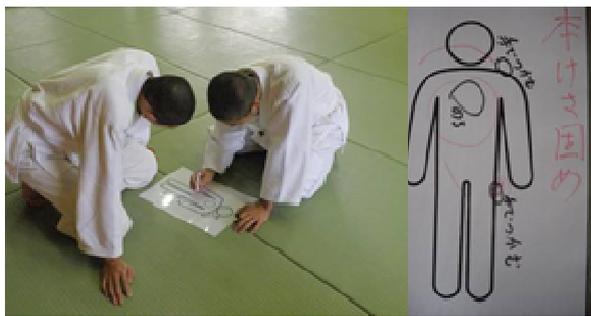
【TTによるきめ細やかな対応】

全体を見渡し、数多く声かけし、安心して学ぶ環境を整える



【関わり合って学ぶ】

ペアで新たな技を考え、話し合う活動で学習を深める



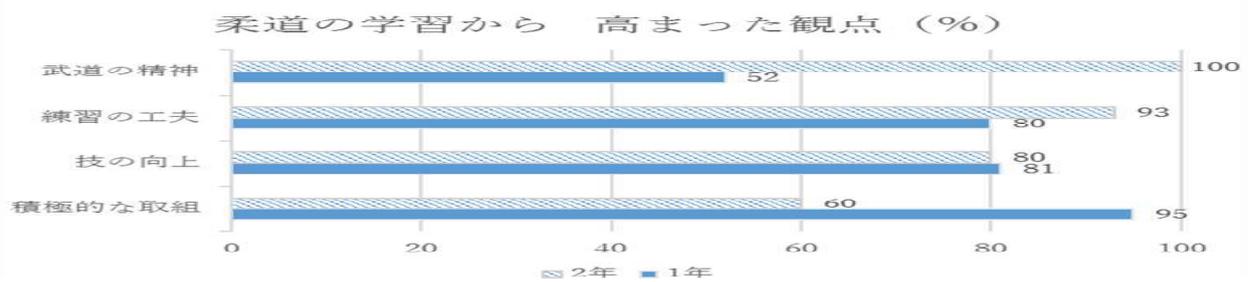
【自己のよさの理解】

身に付いた知識・技能、考え方を振り返りに残す



【事後の振り返りとアンケート】

TT形式による外部指導者との学習の成果の実態



【学び合う柔道の学習を目指して】

専門的な外部指導者を活用した「学び合い」が成立する授業構想を

- ・外部指導者を招聘してのTTによる柔道の学習は、競技歴、指導歴ともに皆無である教師にとって、生徒に武道の楽しさを味わわせ、安全面に配慮して技能の習得や個々への対応を行う上で、大変有効な研修機会となった。
- ・専門性の高い外部指導者と協力し、TT形式で学習を展開することで、安全性に配慮した個々への対応がきめ細やかに行えた。また、ペアやグループでの教え合い、話し合いや考える活動を設定することもより可能になった。全体やグループをTTにより支援することで、つまづきのある生徒にすぐに関わり指導することができたとも考える。こうしたことから、外部指導者とともに課題を設定して学び合う学習の中で、技能や武道の精神を習得させる授業構想をすることができると考える。

地域の指導者と研修歴の浅い保健体育科教師が連携した柔道授業の実践

学校名 佐渡市立畑野中学校（新潟県）1・2年

全校児童生徒数 94名（男子46名 女子48名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0259（66）2058

学校メールアドレス hatano-js@sado.ed.jp

1. 実践研究のねらい

(1) 地域の指導者と連携した指導体制づくり

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

指導者と保健体育科教師によるTT授業の指導内容の工夫と安全面への配慮

(2) 期待される成果（仮説）について

① 地域の指導者の専門的な指導と模範により、技能向上がみられる。

② 柔道が苦手な生徒について、保健体育科教師の支援を行い、技能と意欲の差を軽減する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 指導経験豊富な地域の指導者への依頼

長年、小中学生の指導をしてきた柔道教室の指導者の方に依頼した。生徒の習熟度や取組方を見ながら指導方法を工夫し、対応することができた。また、礼法や安全面についての知識も十分で、事故やケガを未然に防止しようとする意識が高く、安心して行うことができた。

(2) TTの役割分担

授業内容の流れや礼法、準備運動、まとめは教師が主で行い、技能習得のための主運動は地域の指導者が主で指導にあたった。教師は、配慮を要する生徒のサポートや安全面に配慮しながら指導にあたった。

(3) 1日3時間授業の構成

1時間授業では十分な指導ができないことから、3時間連続の授業を行った。

(4) ホワイトボードの活用

授業の流れや習得した技名・専門語句等の必要事項を記入。視覚的に活動が分かるようにした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 様々な基本運動を取り入れた十分なウォーミングアップ

2. 相手を思いやるための心構えと技、生徒自身の安全についての指導の徹底

3. 履修内容の段階的活動、配慮を要する生徒への対応

○成果の意義と今後の課題

1. 指導経験豊富な地域の指導者による指導

地域の柔道教室で子ども達に指導にあっているため、生徒の雰囲気や習熟状況を見ながら展開でき、安全面でもTTの体制が確保され、教師が学ぶ場としても大変有効であった。

2. 地域の指導者の減少と高齢化

授業日に依頼できる高齢の方はいるが、若手の指導者が少ないため指導者を探すことに苦勞する。

研究内容

【地域の指導者による模範】

地域の指導者による横受け身の指導



【ウォーミングアップ】

固め技から逃げる「えびぞり」の練習



【教材】

学習の振り返り



【安全対策】

組同士が接触しないように間に人が立ち、指示や防御をする



【アンケート集計結果】

授業実施後の生徒のアンケート

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| 1. 技能を向上させることができた | < 肯定的評価… 95% > |
| 2. 意欲的に学習できた | < 肯定的評価… 93% > |
| 3. 個別に指導してもらえた | < 肯定的評価… 63% > |
| 4. 安全に学習ができた (ケガをしなかった) | < 肯定的評価… 93% > |
| 5. やる気が出る声かけなどをしてもらった | < 肯定的評価… 68% > |
| 6. 何をするのか分かりやすかった | < 肯定的評価… 94% > |
| 7. 準備や後片付け、活動する時間などが考えられた授業だった | < 肯定的評価… 97% > |
| 8. 地域の指導者の方にまた指導を受けたい | < 肯定的評価… 92% > |

【今後の取組と方向性】

地域の指導者を活用した柔道授業を計画的に実践していく

1. 地域の指導者を継続的に活用し、安全面からもTTで実施していく。
2. 効果的に技術向上を目指すため、1日3時間連続の授業を行う。
3. 柔道を通して礼法や心構え、柔道そのものの楽しさを生徒が習得していけるように進めていく。

外部指導者と連携し、「礼儀作法」や「受け身」を習得することを通して、生徒全員が柔道本来の楽しさを実感できることを目指した実践例

—学校名 津市立美杉中学校（三重県）1年

全校児童生徒数 49名（男子22名 女子27名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 059（272）1191

学校メールアドレス j2721191@res-edu.ed.jp

1. 実践研究のねらい

(1) 外部指導者と連携し、生徒が柔道に対する恐怖心を抱かないよう仲間との学び合いを中心に授業を行うことで、生徒に安心感をもたせる。

(2) 真剣さと「礼法」を重視した授業を行うことで、個人的・対人的な技能を高める。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

初めて柔道を学習する生徒の多くは、「痛そう」、「怖そう」、「やったことがない」などのマイナスイメージを持っており、「自分には無理」と思っている。

(2) 期待される成果（仮説）について

専門性の高い外部指導者が手本となって指導を行うことで、「痛い」、「怖い」という柔道に対するマイナスイメージを払拭し、学習への意欲を高めることができる。また、外部指導者と担当教師が連携することで、生徒一人一人が楽しいと感じられるきめ細かな指導を行うことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 外部指導者との共通理解

毎回、授業開始前に、担当教師と外部指導者との間で事前打合せを1時間行い、その授業の学習内容や指導目標に関する共通理解を図るとともに、生徒の様子についての情報交換を行った。

(2) 外部指導者と担当教師との役割分担

① 担当教師が主導して授業を進め、外部指導者は実技指導を中心に行った。

② 毎時間、担当教師が「めあて」を提示し、具体的なアドバイスを外部指導者が行った。また、授業後の「振り返り」についても、外部指導者が生徒の様子を踏まえた助言を行うことで、次時につながるようにした。

(3) 礼法と受け身を重視しながら、個人的・対人的な技能を身につけさせる指導

① 正座の順序はなぜ「左座右起」なのかについての理解を深めるために、武士が刀を抜く動作を取り入れて説明するなど、生徒の興味を引く指導を行った。

② 準備運動で自由にランニングさせている時に、「笛が鳴ったら止まり、近くにいる人と向かい合って立礼・座礼を行う」、「礼の際に『かかとはついてますか』、『手は横』などと確認し合う。」など、楽しく礼法を身に付けられるように工夫をした。

③ 小グループで練習を行う際に、まず「わからない」、「できない」ところを「聞く」ように指導した。そして、そのことに対して相手がわかるまで教えることを伝えた。担当教師及び外部指導者はいつでも助言できるように、生徒の様子を見守っていくように心がけた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 生徒の健康状態を把握するとともに、冬場の授業では武道場をストーブで暖めたり、靴下をはかせて実技を行わせたりした。

○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者と連携することで、より専門的な実技指導を、少人数のグループを活用しながら有効に行うことができた。また、初めて柔道を学習する生徒に対しては「礼法」、「受け身」、「寝技」などから実技の練習を行うことが安全で楽しい授業につながると改めて実感した。

2. 二人組や小グループでの活動を取り入れることで、誰もが安心できる授業になるとともに、生徒同士の学び合いや、生徒が夢中になれる指導の工夫を行うことができた。今後は、けがの予防のため、受け身の技能をさらに高めるとともに、寝技の習得を目指した授業を行う必要がある。

○ 研究内容

【模範演技】

外部指導者による興味を引く「左座右起」の模範



【2人組での学習】

ペアによる柔道着の着方の確認（男女組）



【グループ活動】

小グループによる、マットからの後ろ受け身の練習



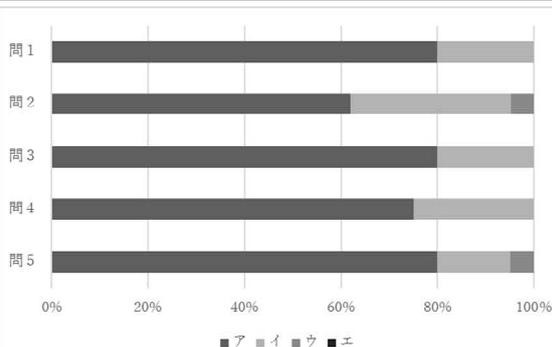
【受け身のテスト】

徹底的に練習した後ろ受け身の技能を確認



【授業後に実施したアンケート結果（1年生20名）】

外部指導者を活用した指導により、多くの生徒が柔道への興味関心や技能を高めることができた。



【質問項目と回答項目】

- 問1 外部指導者の指導により「技能」は高まりましたか。
 問2 外部指導者の指導により「意欲」は高まりましたか。
 問3 外部指導者の指導により「知識」は高まりましたか。
 問4 外部指導者の指導により「礼法」が身につきましたか。
 問5 外部指導者の指導を受けたことに「満足」していますか。

- ア 高まった 身についた 満足している
 イ どちらかといえば高まった 身についた 満足している
 ウ どちらかといえば高まらない 身につかない 満足しない
 エ 高まらない 身につかない 満足しない

【本事業における成果と課題を踏まえた今後の取組】

柔道の本質的な楽しさを実感できる指導内容・指導方法の研究と安全対策の充実

本実践研究のねらいの大きな柱である「礼法」や「受け身」の習得は、武道としての柔道の基礎となる事項であり、これらを抜きにして柔道の本質的な楽しさは実感できないと考える。授業後の生徒のアンケートでは、全ての生徒が「礼法」を身に付けられ、「技能」が高まったと回答しており、ねらいとしていた『真剣さと「礼法」を重視した授業を行うことで、個人的・対人的な技能を高める。』ことについて成果が上がった。また、生徒の恐怖心を取り除き、安全で安心して柔道に取り組むことのできる授業を創造することができた。

今後は、基礎的・基本的な技能の習得をさらに充実させることで、安全かつ柔道の本質的な面白さに迫ることのできる授業を創造していくとともに、外部指導者との学びを担当教師の指導技術の向上につなげていきたい。

専門的指導者との連携により、保健体育科教師の指導力向上が見られた実践例

学校名 浜田市立金城中学校（島根県）第1学年

全校生徒数 104名（男子55名 女子49名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先） 浜田市立金城中学校

電話番号 0855（42）0044

学校メールアドレス kanagi-j@hamada.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 柔道の指導経験が少ない保健体育科教師が、専門的指導者と連携し、授業展開がスムーズに行えるようにする。
- (2) 専門的指導者のもと、生徒の技能向上のみならず、教師の技能、指導力向上を図る。

2. 実践研究の概要

- (1) 保健体育科教師は柔道の指導経験が少なく、指導者と連携し毎年授業を実践している。（6年目）
- (2) 指導者と連携することで、授業展開をスムーズにすることのみならず、指導者から教師が学び、将来的に自信を持って授業展開ができるようになることを期待している。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 打合わせ時間の重要性について

単元開始前に来校していただき、今年度の授業計画を確認した。学年ごとの取り扱う技、授業時数、お互いの連携の仕方などの共通理解を図った。また、授業の前後に必ず打合わせ、振り返り時間を設けた。これは、冬場の体育館で実施するに当たり、授業展開も気候に大きく左右され、直前の変更も必要なことがあるためである。また、教師の模範演技等で、修正した方が良いポイントなどを随時アドバイスしてもらい、次時に早速生かすようにした。

(2) 連携体制の確立について

技に取り組む際は、教師ができるものは主導で行い、指導者に補足のアドバイスをもらうパターンで行った。教師の指導経験が少ない技については、指導者からの実技指導を行ってもらった。その際、教師は生徒と一緒に動いて学び、指導者の受を手伝うことで、技を体感するようしていた。1回目は、この形で行い、2回目以降は教師主導の展開に戻って行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業展開の打合わせを毎時間行うことで、注意する点などを明確にして授業を実践した。
2. 受け身を中心に前半を展開し、どの技においても取の支える手の重要性を強調して行った。
3. 試合形式は行わず、約束練習のみ行った。（固め技は簡単な試合形式を行った）

○成果の意義と今後の課題

1. 生徒の意欲・技能向上が見られた。指導者との連携も6年目となり、教師主導の授業展開のもと、時折アドバイスをもらうというところまで、成長することができた。
2. 連携前は柔道に嫌なイメージを持つ生徒が多かったが、連携開始以降、冬場でも元気よく、前向きに柔道に取り組む生徒が大幅に増えてきた。（見学者の減少、女子生徒の高い意欲）
3. 連携がいずれ終了しても、複数の指導者体制は継続していかないと安全面の確保が心配である。

○ 研究内容

【毎時間話を聴く時間をつくる】

授業の終わりに全体へアドバイス
(授業の取り組み、学校生活についてなど)



【けさ固めの個別指導】

足の位置などを細かく指導。その動きを教師が他の生徒に指導できるようにしている。



【教師も一緒に学ぶ】

教師も一緒に動いて、技を学ぶ



【教師主導の授業展開】

指導者から学んだことを全体に伝える



【生徒の感想より】

女子生徒の意欲的な意見が多く挙がってきた

- けさ固めの取のコツを自分なりに考えて見つけた。どうやったら相手（受）が抜けないかなということを考えて見つけ出せたことが嬉しい。
- 「自他共栄」があまりできていなかったので、相手も伸びるようにアドバイスをしていきたい。
- もし相手が痛い思いをした時は、きちんと気遣いをしたい。

【今後の方向性について】

教師と指導者の連携について

当初は、指導者に指導を仰ぐ場面が多かったが、今では教師が中心となって指導ができている。指導者の動き、言葉を教師が学ぶことによって自らの知識として、生徒に伝達することを心がけている。ただ、安全面の充実、生徒の意欲向上等を考えると、今後も可能な限り、指導者との連携を継続したいと考えている。最後に、教師が学ぶという謙虚な姿勢を忘れず取り組むことが大切である。

授業協力者と授業の在り方や生徒の実態等について綿密な打合せを行い、授業での指導効果を高めた実践例

学校名 美咲町立旭中学校（岡山県）1・2・3年
全校児童生徒数 47名（男子27名 女子20名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0867（27）2029
学校メールアドレス asahi-jh@cyerry.net

1. 実践研究のねらい
 - (1) 授業者と授業協力者との円滑な連携により、専門的な知識及び技術を生かした授業での指導効果の高まりを探る。
 - (2) 生徒の実態に応じ、楽しみながら積極的に学習に取り組む工夫をする。
2. 実践研究の概要
 - (1) 課題について
生徒の武道経験については、小学生時に道場に通ったことのある3名程度で、大部分は中学校の授業で初めて経験する。「左座右起」という言葉を初めて聞く生徒もおり、武道を通して礼儀正しい態度を身に付けるとともに、武道の「楽しさ」を味わわせたいと考えた。
 - (2) 期待される成果（仮説）について
授業協力者と授業準備の際に綿密に打合せを行い連携することにより、授業協力者の専門性をより生かして個に応じた指導や安全に対する配慮ができ、教師の指導力向上も図られる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - (1) 授業協力者の協力を得た学習指導の推進
 - ① 指導の方針 : 授業者、授業協力者
 - ② 単元計画 : 授業者
 - ③ オリエンテーション : 授業協力者 ※柔道の歴史・伝統・特性等
 - ④ 授業メインティーチャー : 授業者
 - ⑤ 模範演技 : 授業協力者 ※各技のポイント等
 - ⑥ 評価 : 授業者、(授業協力者)
 - (2) 柔道の指導の工夫
 - ① 指導計画の作成と指導の展開について、授業協力者と十分に打合せを行った。
 - ② 授業時の注意すべき点や担当する生徒の状況等について、授業協力者にあらかじめ説明し、十分に理解していただいた上で、指導助言を受けた。
 - ③ 受け身の練習を段階的かつ十分に行うとともに、どの単位時間に、どのような技を指導するかを定め、段階的な練習を行うなど、安全管理に努めた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 保健委員による健康観察と体調不良者本人の申し出の徹底
2. 始業前、たたみのずれの確認と調整
3. 髪を束ねる、手足の爪を短くする、金属製ヘアピン禁止などの約束と確認
4. 受け身の習得と毎時間の準備運動を兼ねた受け身練習の反復
5. 約束練習における取・受双方の安全に関するポイントの指導徹底

○成果の意義と今後の課題

1. 成果の意義
 - (1) 武道場に入るところから出るところまで、礼を尽くし、伝統的な行動の仕方・考え方を守る態度で学習に取り組むことができた。
 - (2) 膝車、支えつきこみ足、大腰、体落とし、けさ固めの技について、授業協力者を活用することで、詳細なポイント等を深く学習することができた。
 - (3) 男女とも技の習得に向けて積極的に反復練習し、明るい雰囲気、意欲的に取り組むことができた。
また、授業者と授業協力者が個別にアドバイスをすることで、多くの生徒が技の精度を高めることができた。
2. 今後の課題
 - (1) 自由練習（乱取り）及び試合の取組は行わず、約束練習までにとどめた。
 - (2) 武道の授業を通じて実践した「礼を尽くす」態度を、その後の保健体育授業や学校生活に生かす指導の展開の構築。

○ 研究内容

【オリエンテーション】

柔道の成り立ち・特性，健康安全，礼法，約束事等



【受け身練習】

後ろ受け身，横受け身，前回り受け身



【技の示範】

技のポイント，安全に係る留意事項等



【個別指導】

きめ細かな指導により，技の精度を高めた



【武道授業に対するアンケート結果】

項目「基本的な技の習得」「安全に配慮して活動」「礼儀の大切さ」「相手を思いやる気持ち」について

図1-5 この授業で基本的な技を習得できましたか(旭中学校)

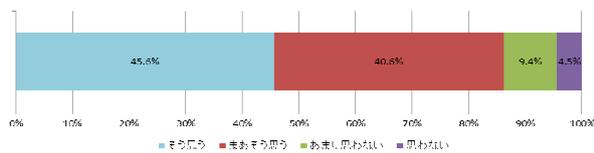


図1-6 この授業を行うとき安全に配慮して活動することができましたか(旭中学校)

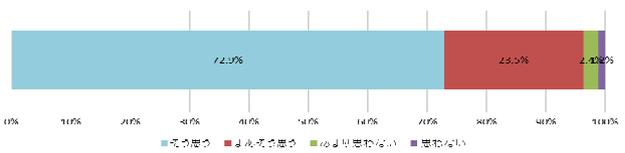


図1-7 この授業で礼儀の大切さを学びましたか(旭中学校)

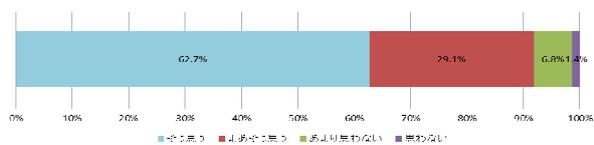
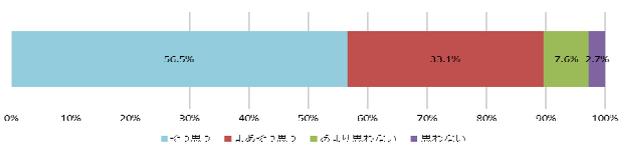


図1-8 この授業で相手を思いやる気持ちを学びましたか(旭中学校)



【今後の武道授業について】

今年度の取組の反省から

授業協力者の活用により，武道・柔道が持つ特性を生徒にもわかりやすく指導することができた。

体格差や運動の得意不得意にかかわらず，いきいきと活動していたことから，「柔よく剛を制す」という柔道の特性を身をもって理解した成果だと考えられる。

また，本単元の授業最終日には，全学年全生徒が心を込めて個々に書いた感謝の手紙を授業協力者へ贈呈した。生徒にとってやりがいがあり，かつ，効果的な指導であったと実感した結果である。それは，「来年度も本単元を授業協力者に教えてもらいたい」と希望する生徒が多かったことからもうかがうことができた。



柔道指導における、基本動作の習得
と安全で楽しい授業づくり

～外部指導者との連携を通して～

学校名 三好市立池田中学校（徳島県） 1・2年

全校児童生徒数 220名（男子127名 女子93名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0883（72）2140

学校メールアドレス ikeda-j@miyoshi.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 柔道における伝統的な考え方を理解し、礼儀作法を身に付ける。
- (2) 基本動作と基本となる技を身に付け、技ができる楽しさを味わう。

2. 実践研究の概要

- (1) 全員が初心者であるため、柔道に対する興味関心を高める。
- (2) 礼法や基本動作の徹底を行うことにより、安全面に気を付ける。
- (3) 外部指導者との連携を図り、楽しく習得できる授業展開を考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 外部指導者との連携

- ① 外部指導者との話し合いの中で、生徒の実態や目標・指導方法の確認を行う。
- ② 外部指導者による専門的な知識と技の手本を見せることによる視覚にうったえる指導。
- ③ 外部指導者と教師が行うことで、細やかな指導と個別指導の徹底を図る。

(2) 受け身の徹底と安全な技の習得方法

- ① 受け身を取り入れた準備運動の実施。
- ② 安全な技の習得（丁寧な段階的指導）。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 受け身や技を指導するときは、必ず低い姿勢から段階を踏んで実施した。
2. 「取」と「受」の協力が大切なことや「取」は引き手を離さないなど、技を行うときは、生徒の実態に応じた指導や個別指導を行った。

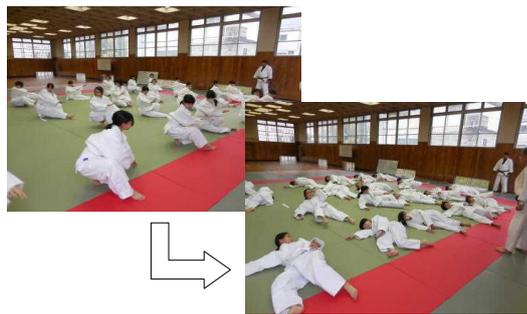
○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者と連携することによって、初心者ばかりの生徒たちに受け身や基本動作を丁寧に指導することができた。
2. 外部指導者の専門的な知識や技能、楽しい話術が生徒たちの興味関心へとつながり、意欲的に楽しく学習することができた。
3. 外部指導者に頼ることが多く、教師自身の指導力向上が何より大切だと痛感した。

○研究内容

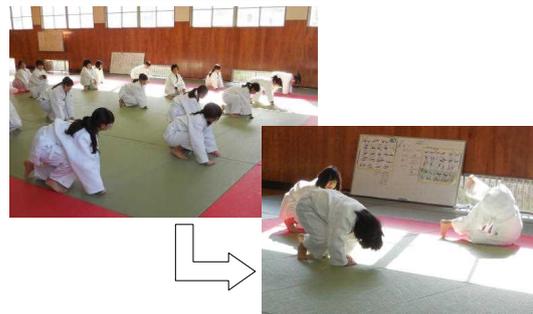
【横受け身】

右足を左前方に伸ばし右斜め後方に倒れ右手で畳を叩く。



【前回り受け身】

背中を丸めて回転し、背中が着くと同時に畳を叩く。



【支えつりこみ足・中腰からの練習】

「受」の人は片膝をつき、「取」は手を離さない。



【支えつりこみ足】

引き手方向に投げ、引き手を離さない。



【生徒の感想】

- ・ 授業をするまでは、柔道に対して恐怖心がありました。でも、講師の先生も優しく教えてくださったので、とてもわかりやすく楽しく練習ができたのでよかったです。
- ・ 私は柔道に興味があったので、楽しみにしていました。授業をしていて受け身の大切さを知ったので、受け身を練習する時は、気合いが入りました。
- ・ 柔道を初めてして、「絶対にできない」と思っていたけれど、先生が一人一人丁寧に教えてくれたので、少しずつ技もできるようになり、ほめてもらったことがうれしかったです。
- ・ 柔道については、テレビで観るぐらいで、あまり知りませんでした。そして、一生柔道をするのではないと思っていたけれど、体育でする機会ができて良かったです。東京オリンピックの時には柔道も観戦したいと思いました。

【今後の取組】

柔道は、運動が苦手な生徒にとっては、痛い、怖い気持ちが先立ち、特に女子は興味を示さない生徒が多い。それは、授業前に実施したアンケート結果からもあられ、興味がある生徒は 20 %であった。授業後は 77 %の生徒が興味を持ち、テレビで観たいと答えた。また、授業後は楽しかったと答えた生徒が 68 %で普通と答えた生徒を含めると 100 %であった。これは、外部指導者の安全に配慮した丁寧な段階指導が展開できたためである。また、的確なアドバイスが生徒たちの励みになり、やる気になったと考えられる。今後も、外部指導者との連携を密にして、安全に気を配るとともに、相手の動きに応じた基本動作の習得に心掛けたい。そして、何よりも教師自身の授業力向上を目指したい。

離島の極小規模校に柔道の指導者を派遣し、保健体育科担当教師の指導力向上を図った例

学校名 平戸市立大島中学校（長崎県）全学年
全校生徒数 計18名
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 095（894）3393
アドレス n-saiki@pref.nagasaki.lg.jp

1. 実践研究のねらい

(1) 離島の極小規模校で、保健体育科担当教師が1名という現状を受け、専門性の高い地域指導者と教師が連携を図り、武道（柔道）の体育授業の充実を図るとともに保健体育科担当教師の指導力向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

長崎県は全国で最も多くの離島を抱える県である。県内公立中学校174校のうち、41校が離島部に属しており、本校においても全校生徒18名という状況である。生徒数に応じて保健体育科担当教師は1名であり、指導に不安を抱えている教師がいても、同僚や近隣校に相談や協力を依頼することもできず、専門性を生かした授業ができていない現状がある。

(2) 期待される成果（仮説）について

- 地域指導者をT2として授業に派遣することにより、専門的な授業がなされ体育授業の充実を図れるであろう。
- 専門性を生かした授業展開により、生徒の理解が高まり、教師の指導力向上にもつながるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 地域指導者の協力を得た学習指導の推進

① 優れた指導力を有する地域指導者の確保等

平戸市教育委員会から県教育委員会へ事業申請を行い、協力を得たい種目（柔道）の指導に適した人材を派遣した。派遣された指導者は、関係団体の講習及び県主催の武道研修会を受講し、学習指導要領の指導内容や指導方法等の理解を深めた競技団体の指導者である。

② 授業における地域の指導者と教師の役割の分担

教師が単元計画を提案し、特に技能の指導内容が発達の段階に応じているか、指導上のポイントは何かなどの助言をいただき、ティームティーチングでの本時の展開を立案した。実際の指導においては、教師が主となり授業を進め、学習課題の提示や学習内容の指導及び確認を行い、指導者が技能のポイントの例示や運動のコツ、よい動きの紹介等を具体的に行った。また、場や用具の安全の確認については、双方で確認を行った。

(2) 実際の授業において工夫した点等

① 保健体育科担当教師が武道指導の経験が少なく、武道指導に不安を抱えているため、武道研修会等で習得した簡単な内容を用い、学習指導要領及び同解説で確認をしながら単元における指導内容を明確にした。

② 地域指導者から生徒のよい動きの例を紹介していただくことで、学習活動に即した評価規準の具体的な生徒の姿を知ることができ、効果的・効率的な評価へとつながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 保健体育科担当教師が武道の指導に不安を感じているという実態を受けて、生徒の性別や体格の程度に応じた指導内容を工夫し、特に「受け身」や「投げ技」の指導に地域指導者を配置し、安全確保をより確かなものとした。

2. 投げ技については、地域指導者及び教師が生徒の体格や適性を見極める中で、生徒に無理のない安全な投げ方を紹介し、安全に配慮した技の習得に努めることができた。

○成果の意義と今後の課題

1. 専門的な指導により、柔道に関してより理解を深めることができ、生徒の学習意欲が高まっただけでなく、教師の指導力向上につながり、更なる研修意欲が高まった。

2. 地域指導者の授業により、柔道指導に不安を抱えていた女性教師が、柔道に対する知識や指導技術向上につながり、指導に対する不安が軽減され、保健体育科授業の充実を図ることができた。

研究内容

【基本的な投げ技と受け身の関連】

安全面に配慮し、立膝からの投げ技を行った



【発展的な内容の紹介】

体さばきから背負い投げに入る段階を紹介



【基本的な固め技の練習】

脚の使い方や体重のかけ方等のポイントを指導



【指導内容と成果】

細やかで丁寧な指導

【内容】

- ・基本的な投げ技の確認（前時の復習：膝車）
- ・高度な投げ技の紹介（一本背負いへの入り方）
- ・基本的な固め技の学習（けさ固め、横四方固め、上四方固め）
- ・固め技の自由練習

【授業前後の意識調査から】

サポーター派遣の前後に生徒の意識調査を実施し、サポーター派遣の効果について検証した。

(1) 体を動かすことは好きですか。

	好き	4	3	2	1	嫌い	0	総計
事前	13	4	1	0				18
	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%				
	94.4%		5.6%					
	好き		嫌い					
事後	16	2	0	0				18
	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%				
	100.0%		0.0%					
	好き		嫌い					

(2) 体育の授業は楽しいですか。

	楽しい	4	3	2	1	楽しくない	0	総計
事前	12	6	0	0				18
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%				
	100.0%		0.0%					
	楽しい		楽しくない					
事後	15	3	0	0				18
	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%				
	100.0%		0.0%					
	楽しい		楽しくない					

(3) 運動のやり方やうまくなる方法を知っていますか。

	知っている	4	3	2	1	知らない	0	総計
事前	8	4	3	1				16
	50.0%	25.0%	18.8%	6.3%				
	75.0%		25.0%					
	知っている		知らない					
事後	10	8	0	0				18
	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%				
	100.0%		0.0%					
	知っている		知らない					

体を動かすことが好きで、体育の授業を楽しんでいる生徒が多い中、運動のやり方やうまくなる方法については低い数値であった。しかしサポーター派遣により後の数値が大きく向上しており、効果があったことが分かる。

【生徒の感想】

昨年度からの指導により更に技能も上達しました

去年から引き続き2回目でした。筋力トレーニングはきつかったけど、体幹を強くすることで技にも生かせることがわかったので、がんばって取り組みました。また、とてもわかりやすく教えてくれたり、技をかけるときに、受け身がとりやすいように技をかけてくれたりしたので、去年よりも上手に技をかけることができました。乱取りでは、先生方と対戦しましたが、何度かきれいに技が決まったり、寝技や立ち技を多く使えるようになったり、上手だとほめていただいたので嬉しかったです。

【教師の感想】

個に応じた配慮に感謝します

昨年から継続して生徒と関わっていただいたので、スムーズに授業が展開できた。生徒との人間関係も深まり、積極的に質問が出る場面もあった。また、礼儀や相手を敬う姿勢を、先生の姿を通して学ぶことができ、憧れの気持ちを持って武道の学習に臨んでいる様子が見られた。

地域指導者と武道指導未経験の保健体育科担当教師が連携した、小規模校の実践例

学校名 徳之島町立尾母中学校（鹿児島県）1～3年
全校児童生徒数 12名（男子6名 女子6名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係わる問合せ先）
電話番号 0997（82）1319
学校メールアドレス omosho@po3.synapse.ne.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 専門的な知識や技能を持つ地域指導者の指導を受けることで、柔道における生徒の興味関心を高め、基本的な技能を習得させる。
- (2) 武道における指導未経験の保健体育科担当教師の指導力向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 地域指導者との連携体制の確立
- ② 小規模校における全体指導計画の作成と指導内容や指導方法の工夫

(2) 期待される成果について

- ① 地域指導者と保健体育科担当教師が連携・協力して指導することで、生徒に安全で効果的な指導を行い、より生徒の実態に応じた授業を展開していくことができる。
- ② 経験豊かな地域指導者のアドバイスと支援を受けることができれば、保健体育科担当教師の指導力の向上につながるとともに、生徒の学習意欲が高まり基礎・基本の技能の定着及び技能の向上を図ることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取り組みについて

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 地域指導者との打合せの時間の確保

- ① 地域指導者の仕事への配慮や打合わせ時間の確保のため、武道の授業の時間を毎時間一定の時間に固定化したことにより、授業後に次時の打合わせをする時間が確保された。
- ② 授業日は毎回、授業の前後の時間を活用し、毎時間の生徒の様子や実態を踏まえた、本時・次時の学習のねらいの確認や進め方、授業の進め方における役割分担の確認を行った。

(2) 地域指導者と保健体育科担当教師の連携・協力

- ① 導入・終末の場面での指示や説明は保健体育科担当教師が行い、技能習得場面では、地域指導者が中心となり授業を進め、保健体育科担当教師が個別指導を行うような授業形態で進めた。
- ② 地域指導者と生徒の心理的距離間への配慮と評価や指導の充実を図るために、生徒の柔道着に名前シールを貼付した。

(3) 授業の充実を図るための学習資料・教材の工夫

基本動作や技の動き、練習方法を理解するための写真やそれぞれのポイントや説明を示した掲示資料を準備し、学習内容の充実を図った。また、自己評価カードを作成し、自己の変容の把握や授業者の授業内容の改善に活用した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 毎時間、健康観察を実施し、生徒の健康状態を把握するとともに、眼鏡の着脱、柔道着の着用の仕方などを確認した。集団で同時に行う場合は、整列の仕方や十分なスペースの確保に留意した。
2. 1年生から3年生の異学年集団（学習経験差のある集団）で授業を進めるため、生徒の体力や技能の習得状況を十分に把握し、難易度を調整して段階的に指導した。
3. ルールや禁止事項の確認と徹底を図り、練習場の安全を確かめながら指導を行った。

○成果の意義と今後の課題

1. 専門的な知識・技能をもつ地域指導者の的確な指導・助言を受けることで、生徒の意欲が高まり技能の定着が図られた。
2. 地域指導者のアドバイスと支援により、保健体育科担当教師は自信を持って指導を行い、指導力向上が図られた。
3. 地域指導者と効率的に打合せを行い、連携することができたことで、個別指導や生徒の実態に応じた指導を行うことができた。
4. 小規模校における、全体計画の作成と指導内容や指導方法の工夫については、毎年生徒の実態に応じて改善していく必要がある。

○ 研究内容

【地域指導者との連携①】

地域指導者と保健体育科担当教師の授業内での役割分担



【地域指導者との連携②】

T1・T2による指導と授業後の次時の打合せ



【授業の充実を図るための学習資料・教材の工夫】

学習資料と自己評価カード



【授業の充実を図るための学習資料・教材の工夫】

技のポイントや説明を示した掲示資料



【授業前後の生徒の意識の変化】

授業前は柔道に対してあまりよいイメージがなかったが、授業中は意欲的に取り組む姿が見られ、授業後の感想には「楽しかった」「〇〇したい」等の感想が多く、生徒の前向きな意識の変容が見られた。

<授業前アンケートから>

柔道が好き（1人）
 どちらでもない（8人）
 嫌い（3人）
 <柔道が好きではない理由>
 ・ケガや打撲をするから（3人）
 ・技が上手くかからないから（2人）
 ・投げられると痛いから（2人）
 ・怖い（2人） ・楽しくなさそう（1人）



<授業後の感想から> 楽しかったこと、頑張ったこと等

・試合が楽しかった（5人） ・勝ったときとても嬉しかった
 ・技をかけたりするのが楽しかった（4人）
 ・細かいところを意識してできた（3人）
 ・安全に気を付けた（6人）
 ・相手を尊重してできた（2人）
 ・礼儀に気を付けてできた（2人）
 ・勝つためにどうすればよいか考えた
 ・次は勝てるようになりたい ・技をもっと試したかった

【今後の武道の指導について】

武道指導未経験の保健体育科担当教師にとって、地域指導者の協力は非常に心強いものであり、安全で効果的であった。また地域連携実践校訪問の際には、県教委や協力委員の方々からより専門的な助言や指導を頂き、今後の授業計画を作成する上で大変有意義なものになった。今後も地域指導者の協力が継続すると、効果的、継続的な指導ができると考える。また、保健体育科担当教師として今後も積極的に研修等に参加し、より安全に効果的な指導ができるように努めていく。

授業協力者を活用した 武道学習（剣道）の実践例

学校名 由利本荘市立鳥海中学校（秋田県）1, 2年

全校児童生徒数 99名（男子49名 女子50名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0184（57）2309

E-Mail chokai-jh@edu.city.yurihonjo.akita.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 剣道に関する専門的な知識と高い技能を有する授業協力者に指導補助を依頼し、技能、知識、作法や伝統的な行動の指導方法について研修を深める。
- (2) 授業協力者の指導法を参考にし、安全面に配慮した指導方法について研修を深める。

2. 実践研究の概要

- (1) 剣道の特性に関心をもち、意欲的に学習するための指導方法の工夫
- (2) 礼儀作法や技について「鳥海流免許皆伝」として提示し、段階的に学習を進めることで、意欲的に学習に取り組むことができるのではないか。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 剣道形による基本動作や技の段階的な指導「鳥海流免許皆伝」
 - ① 剣道の歴史、礼法について（授業協力者の講話）（DVD資料の活用）
 - ② 構え方と基本動作、間合い
 - ③ 一本打ちの技→連続技→抜き技→払い技（DVD資料の活用）
- (2) 習得した技を活用する活動
 - ① 技の「できばえ」試合
 - ・先攻、後攻を決め剣道形の「できばえ」について競う。
 - ・審判の生徒が判定する観点は「打突」「発声」「残心」（記録用紙に○印を記入）
 - ② 演武（古風な曲に合わせて剣道形（技）を演武する。
 - ・1年生の演武の例
立会の作法 → 面 → 胴 → 小手 → 小手・面 → 引き胴 → 面抜き胴

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業協力者考案による塩化ビニールパイプと発泡スチロールを用いた柔らかな素材の「痛く竹刀」を使用したことにより、ケガを防止することができた。
2. 素足で活動するのに適した気温等に配慮し、9月中旬から毎週木曜日に1時間の授業を実施した。

○成果の意義と今後の課題

1. 第1学年では活動時間確保のために防具を着用せず、授業協力者考案による簡易竹刀「痛く竹刀」を使用したことにより、生徒は意欲的に技の習得に取り組むことができた。第2学年で防具を着用して活動する際には、第1学年で習得した技を活用できるように指導したい。
2. 第2学年では、授業協力者考案による音楽に合わせた「リズム剣道」に取り組み、グループで相談、協力しながら技の習得に取り組むことができた。
3. 「立会作法」や「簡易試合」の活動において、生徒は剣道の基本動作や基本技の習得だけでなく、日本の伝統にも触れながら武道について学ぶことができた。

○ 研究内容

【鳥海流免許皆伝】

第1学年 剣道形による技の習得順序を生徒に提示

鳥海流剣道免許皆伝 その一
 剣道について
 木刀による剣道基本技稽古法
 礼法 木刀の構造と名称
 構え方と基本動作
 提刀 帯刀 構え方 蹲踞
 間合い 足さばき
 一本打ちの技
 二・三段の技
 抜き技 引き技
 仕上げ（演武）

【授業協力者による指導】

第1学年 「痛く竹刀」を使用した間合いと技の指導



【授業協力者による指導】

第2学年 木刀を使用した技の指導



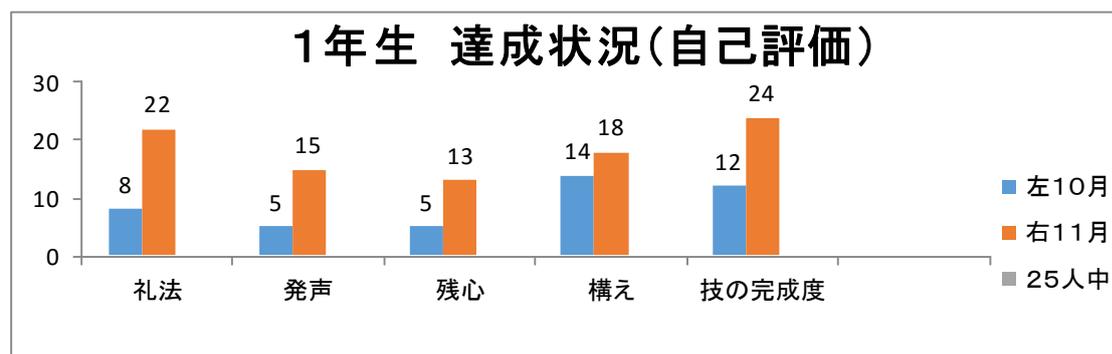
【剣道形の「できばえ」試合】

第1学年「痛く竹刀」を使用 左：審判の生徒 右：対戦する生徒



【生徒の自己評価カードから】

各項目について十分達成できたと感じたら○印を記入（10/24と11/10の比較）



【剣道指導における今後の方向性】

剣道の特性に関心をもたせ、日本の伝統文化に触れながら技能の向上を図る指導を目指して

授業協力者のご指導により、柔らかい素材の簡易竹刀の活用と剣道形による技の指導等、安全かつ段階的に技を習得するための指導方法について研修を深めることができた。今後も武道の授業において、用具や練習方法の工夫により技ができる楽しさを体感し、礼儀作法や基本動作を習得していく中で、日本の伝統的な行動や考え方、歴史などについて理解を深めることができるような授業実践をしていきたい。

外部指導者の専門性を生かし、異学年の生徒が意欲的に練習や試合に取り組むための学習活動の充実を図った実践例

学校名 南砺市立井口中学校 (富山県) 1, 2, 3年
全校児童生徒数 26名 (男子15名 女子11名)
種目等 武道 (剣道)
(本事例に係る問合せ先)
電話番号 0763(64)2053
学校メールアドレス inokuchi-jhs@tym.ed.jp

1. 実践研究のねらい
 - (1) 武道に関する専門的な技能や知識を有する外部指導者と連携することで、より専門的な技能や知識を習得することができるよう学習活動の充実を図る。
 - (2) 保健体育科教師と外部指導者とが連携して指導し、安全面への配慮や生徒の発達の段階(異学年合同体育)に応じた指導内容の充実を図る。
2. 実践研究の概要
 - (1) 課題について
経験値が違う生徒が基本動作を身に付けたり礼儀の大切さについて考えたりするために、教え合い活動を取り入れるなどして、課題に沿って意欲的に学習活動に取り組ませたい。
 - (2) 期待される成果(仮説)について
各学年の学習課題と既習事項について、外部指導者と情報を共有しながら連携して指導することで、安全面、技能面共に充実した指導ができ、生徒の技能や意欲が向上する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - (1) 外部指導者との連携
 - ① 外部指導者の専門的な助言を取り入れ、保健体育科教師が指導計画に反映した。
 - ② 事前に指導内容について綿密に打合せをしたり、授業後に生徒の様子について話し合ったりして、次時の指導に生かした。
 - (2) 指導方法の充実
 - ① 第1学年と第2学年の授業を合同で行ったことで、経験のある2年生が1年生にアドバイスできるようにした。3年生では、既習事項を生かして、払い技やすり上げ技等に取り組むなど、より高度な技術指導も行った。
 - ② 礼儀を重んじ、挨拶の大きさや姿勢について機会を捉えて指導した。
 - ③ 新しい技の練習時は、恐怖心のために動きが小さくなるため、新聞紙の刀を使って動きを練習した後で、竹刀を使うようにした。
 - ④ 練習した技を試合で生かせるように、試合の時間を十分に確保するとともに、生徒が審判技術を身に付けるため、試合の審判を外部指導者と一緒に行うなどして安心して取り組めるようにした。
 - (3) 段位取得講習会及び剣道授業指導法講習会への参加
 - ① 保健体育科教師が剣道の段位取得講習会(H27)を受講したり、「剣道授業指導法講習会(県剣連主催)」に参加したりして、剣道の技能ならびに礼儀の大切さや楽しく学習する方法などについて理解を深め、指導に生かした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1. 体育館で授業を行うため、床の金属製プレート等が足に引っかからないようテープを貼った。
2. 竹刀の取り扱い方、点検の仕方等の指導を繰り返し行った。
3. 防具の着け方、片付け方の指導を丁寧に行い、仲間と確認し合った。

○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者に来ていただき、豊かな経験を基にした専門的な指導を受けることができた。どの生徒も真剣に話を聞き、意欲的に学習活動に取り組んだ。
2. 昨年度と今年度は、1, 2年生が合同で学習した。防具の着け方、基本打突、連続技等の練習において2年生が1年生に教える姿が見られた。今後も合同で学習することで、学んだことを教え合いながら学習の成果を上げていきたい。
3. 事前打合せで外部指導者と生徒の実態を共有し、実態に合わせて手本や説明をしたおかげで、生徒は、早くに技のポイントを理解し、着実に力を付けた。練習や試合では、大きな声を出すなど自信をもって取り組んだ。
4. 新しい技を練習する際、始めに新聞紙の刀を使って練習することで、恐れず練習することができた。技の習得に大変有効だった。
5. 試合の審判を外部指導者と一緒に行うことで、「気剣体の一致」を意識した判定ができた。
6. 最後の授業では、生徒から「外部指導者の方と試合をしたい」と申し出があり、相手をしていただいた。外部指導者の方の気迫と動きの速さに圧倒されながらも生徒はとても感動していた。より一層剣道に対する関心・意欲を高めることができた。次年度につながる、非常に有効な時間であった。

【様式1】2 ページ目

○ 研究内容

【礼儀作法の学習】
礼の仕方や礼儀作法の大切さについて学んだ。



【外部指導者による技の示範】
技のポイントについて説明を丁寧にいただいた。



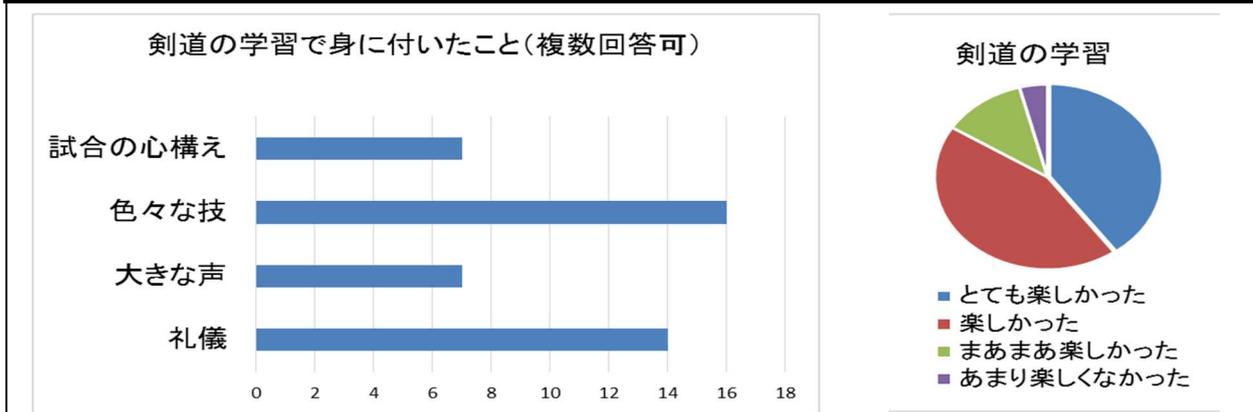
【道具を工夫した練習】
始めに新聞紙を使うことで、恐怖心なく練習した。



【紅白試合】
外部指導者と一緒に審判をし、判定ができるようにした。



剣道の事後アンケート結果（対象：全校生徒 26 名）
外部指導者との学習を通して、技能や意欲が高まったとする結果が得られた。



【地域の指導者と連携したことによる成果と今後の課題】
実態を共有したことによる有意義な学習活動の展開と異学年構成の成果と課題

外部指導者に来ていただき、生徒は、「防具の着け方や技などを丁寧に教えてくださった。」「一つ一つの説明が分かりやすく、楽しかった。」などの感想をもった。外部指導者からの提案を生かした安全面や技の段階的指導のために新聞紙を使うことなどは、生徒が安心して意欲的に学習に取り組むために有効な手立てとなった。今後も、外部指導者の方と連携を取りながら、より一層武道の指導を充実させたい。

さらに、剣道の学習を通して学んだ礼儀作法を、日常の学校生活でも生かすよう学校の教育活動全体を通して進めていきたい。来年度も引き続き、異学年構成で授業を行うことが考えられる。異学年構成の良さを学習活動で生かすことができるようなグループングやペア等の学習形態、学習内容等の研究を今後も進めていきたい。

武道用具等での安全確保を効果的に行い、 意欲を高める剣道指導の工夫

－ 1・2年生における系統的な指導－

学校名 小松市立国府中学校（石川県）1・2年

全校生徒数 213名（男子111名 女子102名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0761（47）2004

学校メールアドレス kokuhu-j@kec.hakusan.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 専門家である授業協力者と保健体育科教師が連携し、2学級合同の生徒数（2年生69名）や限られた武道等の施設・設備・用具等でも生徒が意欲的に取り組める剣道指導の在り方を探る。
- (2) 昨年度に引き続き、専門家である授業協力者の豊富な指導経験を学ぶことにより、保健体育科教師の指導力向上を図るとともに生徒の技能向上を目指す。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

剣道用具のセット数が少なく、一度に2学級全員が同時に着用することができない。2学級分の竹刀は確保できている。

(2) 期待される成果（仮説）について

限られた用具等を活かし、様々な教材や指導方法を用いることで、剣道に対する生徒の意欲を高め、安全への配慮を行いながら、系統的に技能の向上を図ることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 生徒の意欲を高める工夫

手ぬぐい落とし、新聞切り、ボール打ち等の教材の活用により、意欲的に取り組める工夫を行う。

(2) 安全への配慮と剣道技能習得の工夫

- ① 授業前・授業後に授業協力者との打合わせをしっかりと行い、生徒の状況や目指す生徒の姿、授業の進め方を共通理解しながら授業に取り組む。
- ② 上述のような教材の活用を含め、単元を通して、最終的にグループによる判定試合を行い、互いに評価し合うことによって剣道の特性に触れ、剣道技能の習得につなげる。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業における約束事を提示し授業に取り組む姿勢や安全な練習の仕方、用具の使い方を確認した。
2. 体育館の床や竹刀の点検を行い、危険物や竹刀のささくれ等によるケガの防止に努めた。
3. ペアやグループになる際は体格や技能を考慮し、ペア学習やグループ学習の際は十分な間隔を確保するように指導した。

○成果の意義と今後の課題

1. 専門的な知識を持った授業協力者の指導によって、限られた武道等の施設・設備・用具等であっても教材や指導方法、計画的・系統的な指導を行うことによって生徒が意欲的に取り組むことができた。また、保健体育科教師の指導力向上にもつながった。
2. 2学級合同（生徒数69名）の授業の実施に当り、近隣の中学校や武道館から竹刀を借用した。

○ 研究内容

【声（気）を出すために】

手ぬぐいで目隠しをし、ペアの声がする方へ移動する。



【安全面への配慮】

有効なスペースの活用・ペアやグループ学習の工夫。



【手ぬぐい落とし】

動きながら踏み込み足で手ぬぐいを落とす。



【判定試合による相互評価活動】

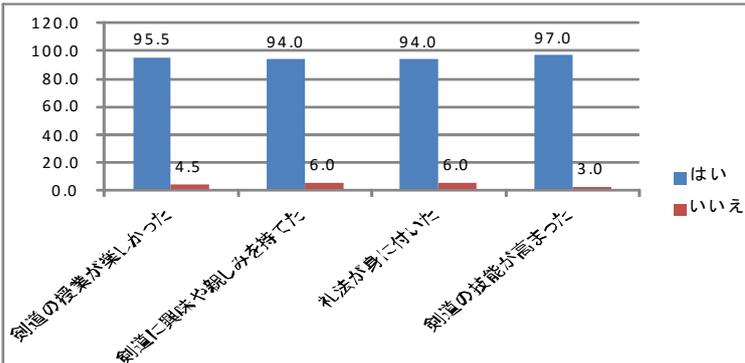
気・剣・体の一致を判定試合で評価。2年生は二段打ち。



【剣道授業に関するアンケート結果】

剣道の授業を実施し、①剣道の授業は楽しかったか、②剣道の技能は高まったか等についてアンケート調査を実施した。

1・2年生 134名にアンケートを実施した。昨年度に増して、約95%の生徒が剣道の授業を通して、楽しさや興味、親しみを持つことができ、最初に比べ礼法や技能が身に付いたと実感することができた。2年生の生徒の感想には1年生の時よりも難しかったが、よりレベルの高い技能の練習ができて楽しかったというものも多く見られた。



【本事業の成果と課題を踏まえて】

生徒の取り組む様子やアンケート結果から次年度以降も今年度の取り組みをベースに実施する。

昨年度に引き続き、限られた武道等の施設・設備・用具等であっても教材や指導方法、計画的・系統的な指導を行うことによって生徒が意欲的に取り組むことができると実感した。特に第2学年は系統的な指導内容により、難しさの中に楽しさを実感することのできる授業となった。防具の装着について、市内の中学校と実施時期等を確認し、可能であれば防具を借りることも検討課題として捉えている。

剣道における授業協力者とのチームティーチングにおける授業実践

学校名 吉野郡川上村立川上中学校（奈良県）全校生徒
全校児童生徒数 12名（男子7名 女子5名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問い合わせ先）
電話番号 0746-52-0014
学校メールアドレス ka-wa@m5.kcn.ne.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 授業協力者と保健体育科教師が事前に打合わせを行い、指導内容や武道を通して身に付けさせたい力について共通理解を図り、連携して授業を行う。
- (2) 豊富な指導経験を有する授業協力者とのチームティーチングの実践による保健体育科教師の指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

本校の保健体育科教師は剣道の指導経験がなく、専門的な指導をすることが難しい。剣道についての知識はあるものの、指導方法の経験が少なく、段階的な指導を行うことができない。

(2) 期待される成果（仮説）について

授業協力者を活用することにより、より専門的な知識や技能を生徒に授けることができるとともに、剣道の歴史的背景を踏まえた、礼儀・作法についても学ぶことができる。

○ 課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 毎時間の授業後に授業協力者と本時の授業の振り返りを行った。礼儀・作法が身に付いているか、生徒の技能の上達具合、剣道が初心者への生徒への指導方法など、次時につながる打合わせを行った。
- (2) 実技指導における専門的なポイントや技能評価の見べきポイントをアドバイスして頂いた。

○ 児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1. 授業の導入とまとめの段階で、必ず体調の確認を行い、健康面の配慮をした。
2. 武道場の安全点検を行った。剣道の授業を毎回、5,6時間目に設定。お昼休みの時間帯に、生徒による武道場の清掃活動を行い、自分の安全を自分で確保できるよう指導した。
3. 授業中のみ、木刀や竹刀を使用することとした。
4. 段階的な指導を行った。剣道の「形」を体得したのち、木刀による剣道基本技稽古法について理解を深めさせ、試合を行った。

○ 成果の意義と今後の課題

1. 授業後のアンケートで、生徒たちは、「これからは相手よりも先に挨拶をしたい」「礼儀を剣道で学べて良かった」など、しっかりと礼儀・作法について学んでくれた。
2. さまざまな指導方法があることを知り、保健体育科教師も大変勉強になった。今後の課題としては、教師自身の指導力の向上を図らなければならない。そのために、地域で行われている剣道教室に積極的に参加し、自らの技量を高めることで、指導力の向上につなげていく。

○ 研究内容

【礼儀・作法についての指導】

座礼の仕方や左座右起等についての丁寧な説明



【進退動作の練習】

前後左右の進退動作の練習・確認



【木刀による剣道基本技稽古法】

剣道の技の基礎基本である形について学んでいる様子



【授業協力者が審判となり行う試合】

授業協力者に審判をしていただき行った試合の風景



【授業終了時点における生徒の感想】

- ・ これからも自分から先に挨拶することを心がけていきたいと思いました。
- ・ 剣道を習うまでは何も分かりませんでしたが、剣道を初めて習い、基本や礼儀など色々なことを学びました。まだ試合で「面」「小手」「胴」が決まらない時がたくさんあるので、来年もしっかりと練習できたらなと思いました。
- ・ はじめは竹刀で面をたたかれるのが怖いなと思っていましたが、時間が経つと楽しくなってきた、そうするとたたかれるのも怖くなくなりました。またどこかで剣道をしたいなと思いました。

【アンケート結果からの考察と今後について】

今回の授業で学んでもらいたいことが二つあった。一つ目は「礼儀・作法」についてである。アンケートの中にもあったように、「これからは自分から挨拶をしたい」や「脱いだ靴はきちんと揃えたい」など前向きな答えが非常に多かった。授業協力者が熱心に「礼儀・作法」について指導をしていただいたおかげで、武道の授業が終了してもなお、きちんと学校生活を送ることができており、非常に良かったと思う。二つ目は、「剣道が楽しいと感じること」である。授業協力者の専門性を生かした指導により、生徒たちの技量の向上がとても早かったように思う。「来年も楽しみながら頑張りたい」など、剣道の授業が有意義であったことが分かった。以上のことから、今後も授業協力者と連携したチームティーチングを行ってほしいと思う。保健体育科教師の指導力の向上も図ることができ、充実した時間であった。

外部指導者と教師の連携した 剣道授業に関する研究

～全学年男女共習授業における工夫～

学校名 三好市立西祖谷中学校（徳島県）全学年
全校児童生徒数 17名（男子11名 女子6名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0883（84）1290
学校メールアドレス nishiiya-j@miyoshi.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 基本動作や基本となる技を身につけさせるための外部指導者活用について研究する。
- (2) 全学年男女共習授業での指導上の留意点について研究する。

2. 実践研究の概要

- (1) 全学年男女共習という学習形態では、学年・男女の体格や意識の差、剣道の経験の差がある。
- (2) 体格差や経験の有無によってペアを組み、場合によっては教師や外部指導者が相手になり、基礎・基本を中心にした授業を行う。生徒の実態について、教師と外部指導者が共通理解を図り、基本的な礼法から基本打突の練習、かかり稽古や約束稽古にまで内容を発展させる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 準備段階で集中力を高め、丹田に力を込めて全員で発声することを意識させた。声がなかなか出せない生徒に、ゲーム感覚の声出しを行うことで、剣道に取り組む意欲を高めた。
- (2) 左右の腕に同じように力を入れ、竹刀が横ぶれしないように振り下ろさせるように、互いに素振りを確認させた。
- (3) ペアを組む際は、以下の点を考慮して組ませた。
 - ① 初めて剣道をする1年生と、経験がある2・3年生で分かれた。
 - ② 体格の似た同性同士で組んだ。
- (4) 外部指導者2名と、普段保健体育科を担当している教師2名が分かかれ、全ての生徒に目が行き届くように、立ち位置を考えながら、一人一人に的確な助言を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 竹刀が割れていないか、弦が緩んでいないかの点検を毎時間行った。
2. 礼儀や思いやりを大事にする武道の精神を学び、対人練習のときの相手への配慮につなげた。また、かかり練習や約束練習の際には、安全な空間の確保し、身のこなしと打突部位について指導した。

○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者が行う礼法や、基本動作の模範は『本物』の説得力がある。礼法や思いやりを学んだことで、相手への気遣いなど、さまざまな場面で生徒の意識の変化が見られた。
2. 男女で指導する際の留意点異なることを外部指導者から教わり、武道以外の種目に共通して言えるため、全学年男女共習の形態をとる本校では、今後の授業でも考慮する必要がある。

○ 研究内容

【礼儀・作法】

座礼・立礼の仕方や、武道の考えについて外部指導者から学ぶ。



【発声練習】

二つに分かれ、ゲーム感覚での声出しをする。



【素振り・足さばき】

外部指導者と教師で細かいところまで指導した。



【打ち込み台をつかって】

刃筋正しく打つ感覚を身に付ける。



【ペアの組み方】

体格が似ている子ども同士でペアを組ませた。



【かかり稽古】

打突部位を刃筋正しく打ち、体さばきを身に付ける。



【外部指導者の技術指導の生かし方】

より剣道の魅力を伝えられる授業にするための指導の工夫の必要性

本校では、全学年共習であるため、授業の最終目標が設定しにくく、授業計画を立てにくい。しかし、上級生が1年生に教える場面が多く見られ、生徒に思いやりが育まれているように感じた。「剣道が楽しい」と感じた生徒が多い反面、剣道に対する恐怖心が強くなった生徒もいる。来年度は、剣道の経験によってグループを分け、習熟度別の授業展開も考えたい。また、外部指導者の生の剣道の試合を見ることができると、さらに興味関心が高まるのではないかと感じた。外部指導者だからこそできる指導を考え、相談しながら、授業していきたい。

地域指導者の活用を通して、剣道授業の充実を図った実践例

学校名 九重町立このえ緑陽中学校（大分県）1・2年

全校児童生徒数 198名（男子111名 女子87名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0973（73）2661

学校メールアドレス a47240@oen.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 生徒が安全で楽しく運動量を確保できる剣道授業の在り方を探る。
- (2) 地域の剣道指導者と協力して授業を行うことで保健体育科教師の指導力向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

事前のアンケートでは、剣道に対するイメージとしては否定的なものが多いことがわかった。特に「痛い」「怖い」といった精神的不安、「寒い」「臭い」といった環境的不安の声が多く挙がった。その反面、剣道の特性に触れることに対する肯定的なイメージも多くあるため、地域指導者の助言を受け、両側面からアプローチをかけるような授業の構成をしていく。

(2) 期待される成果（仮説）について

生徒のアンケートから見えた課題に対して①精神的不安、②環境的不安のそれぞれを取り除くためのアプローチ、③剣道の特性に十分触れ、運動量を確保するなどができれば、生徒の剣道に対する否定的なイメージを変えていけるのではないかと考えた。その指導内容については、生徒の意欲向上につながるよう、教師が武道研修会で学習してきた内容を元に地域指導者からの助言を受け、構成をしていった。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 生徒が安全で楽しく運動量を確保できる剣道授業の在り方を探る。
 - ① 剣道への興味関心を高めるために導入としてDVDを活用した。
 - ② 剣道の基礎基本となる動きをゲーム形式で取り入れ、運動量の確保を行った。
 - ③ 剣道の特性に触れ、安全面の配慮をするために毎時間防具の着装を行った。
 - ④ 剣道の特性に触れ、生徒同士が安全面に留意をするために学習のルールを確認した。
 - ⑤ 運動量を確保するために毎時間リズム素振り（ペア・グループ）を行った。
 - ⑥ 施設、道具、用具を最大限に活用した授業づくりを行った。
- (2) 地域の剣道指導者と協力して授業を行うことで保健体育教師の指導力向上を図る。
 - ① 授業では教師がT1として授業を進め、地域指導者にサポートしてもらった。
 - ② 指導内容の説明は、教師、地域指導者、剣道部員などが示範を行った。
 - ③ 指導内容については事前に打合わせをし、生徒の状態を見ながら臨機応変に進めていった。
 - ④ 用具、道具の簡易的着装、管理、手入れの方法を生徒と共に学習した。
 - ⑤ 評価の時間には役割分担をした。（教師⇒評価、地域指導者⇒指導）
 - ⑥ 武道が必修化になっている意味や意義について確認した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 毎時間の授業で竹刀の使用、防具の着装をする中で用具、道具の安全確認を行った。
2. 個人、ペア、グループで安全に活動するためのルールや方法を説明し、巡回指導を行った。
3. 武道指導者講習会で学習したリズム素振りを取り入れることで段階的指導につながった。
4. 生徒の準備～主活動～片付けまで複数の指導者で見ることにより、支援が必要な生徒への細かな手立てや危険回避ができた。

○成果の意義と今後の課題

1. 実践研究のねらい

- (1) 生徒が安全で楽しく運動量を確保できる剣道授業の在り方を探る。
- 剣道の特性に触れる方法を工夫（ゲーム形式）することは生徒の意欲向上につながった。
 - 剣道授業実施前に武道指導者講習会があり、段階的指導方法を有効活用することができた。
 - リズム素振りは基本技能の定着や運動量の確保につながるということがわかった。
 - 毎時間、防具の着装を行うことで安全面への配慮ができた。
 - 毎時間、防具の着装や片付けを行うことで生徒への定着が見られた。
 - △ 剣道授業の実施時期を見直す。
 - △ 道具や防具の適切な管理、手入れを行い、生徒の不安要素を軽減する。
 - △ 生徒の興味関心が最も高かった試合形式の時間があまり確保できなかった。
- (2) 地域の剣道指導者と協働して授業を行うことで保健体育教師の指導力向上を図る。
- 教師の指導を地域指導者が全面的に見守り、サポートしてくれた。
 - 地域指導者と剣道部員の模範実技を見せることはとても有効であった。
 - 生徒の準備～主活動～片付けまで複数の指導者で見ることにより、支援が必要な生徒への細かな手立てや危険回避ができた。
 - 用具、道具の簡易的着装や片付け、管理、手入れの方法を生徒とともに学習することができた。
 - 技能テストでは役割分担をすることができた。（教師⇒評価、地域指導者⇒指導）
 - 地域指導者からの協力も得て、「なぜ武道が必修化なのか」をみんなで考えることができた。
 - △ 地域指導者との打ち合わせの時間の確保が難しい。
 - △ この事業を年度初めから実施できれば、剣道の実施時期の工夫ができる。
（年間指導計画への位置付けに関わって）

○ 研究内容

【安全面の配慮：防具の着装完了】

授業の最後には全員が5分以内で防具着装完了



【段階的指導：リズム素振り】

1～8のリズムを教えながらの素振り（個人）



【段階的指導：リズム素振り】

1～8のリズムを教えながらの素振り（ペア）



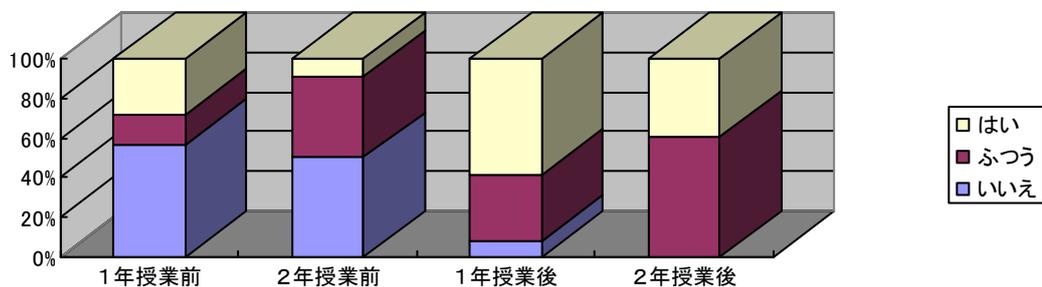
【授業後半の簡易試合】

学習してきた内容を活用して1対1の攻防



【剣道授業事前～事後のアンケート結果】「剣道の授業への愛好度」

生徒の剣道授業事前の調査では、否定的な意見が多かったが、事後には肯定的意見に変化している。



【今後の方向性】

生徒の安全が確保され、さらに楽しく充実した剣道授業の在り方を継続的に模索していく。

本校ではこの事業を活用して2年目であるが、昨年度と同様、授業の開始時期についての課題が挙げられているため、早急に見直しをしていきたい。本年度は生徒が武道（剣道）に対して抱いている否定的・肯定的イメージの両側面からアプローチを行った。まだまだ課題は多いが、生徒にとって武道（剣道）授業がより楽しく、意義深いものになるようさらに授業研究を進めなければならない。来年度も教師として努力すると共に地域指導者のお力添えを頂きながら剣道授業を進めていきたい。

男女共習での相撲授業における実践例

学校名 阿南市立新野中学校（徳島県）1・2・3年
全校生徒数 68名（男子33名 女子35名）
種目等 武道（相撲）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0884（36）2040

1. 実践研究のねらい

- (1) 基本動作を正しい姿勢で行うことができ、学習場面に応じて仲間と協力し、安全に約束練習に取り組める。
- (2) 相撲に関心を持ち、対戦における礼儀や作法の意味を理解できる。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 男女一緒に授業を受けるので、それぞれへの声かけや指導方法について知る。
- ② 武道での礼儀・作法や約束練習から「思いやりの心」を持たせる。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ① 男女共に授業を楽しく受けることができる。
- ② 約束練習を通して、相手への感謝の気持ちと、礼儀・作法から気持ちを高めることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 授業の受け方について

- ① 恥ずかしがって本来の動作を正しくできないかもしれないので、男子を前列、相撲に抵抗感があると思われる女子を後列にし、できるだけ横並びで指導を行った。
- ② 授業のはじめとおわりの挨拶は蹲踞姿勢からの塵浄水を行い、約束練習や対戦時は相手と目を合わせてから礼をすることを徹底した。

(2) 楽しい授業展開

- ① 1時間の授業を2時間連続して行うことで、気持ちが乗ってきたら自ずと取り組むことができると考えた。また、手押し相撲等の簡易な対戦をたくさん取り入れることで男女共に楽しく授業に取り組むことができた。
- ② たくさん取り入れた簡易試合で対戦相手を変えたり、勝ち抜き戦を行ったりして礼儀・作法を繰り返し行った。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業のはじめとおわりの挨拶は蹲踞姿勢からの塵浄水を行うことで、気持ちの切り替えを図った。
2. 土俵がないため体育館に相撲マットを敷き、その周りに体育用マットを敷きつめた。
3. 約束練習では受と取をはっきりと決め、「何歩進む」など行うことを具体的に示した。

○成果の意義と今後の課題

私自身が外部指導者の方と連携して相撲授業に取り組むのは3度目になるが、今年度は男女共習、はじめての試みであった。女子があまり意欲的に取り組めないのではないかと不安もあったが、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んだ。また、感想の中には相撲をテレビで見たなど、相撲に関心を持つ姿も見られた。外部指導者と連携することで、生徒もより意欲的に取り組めたのではないと思う。

保健体育科教師が生徒との信頼関係を築いていけば男女関係なく取り組むことができ、ちょっとした声かけで意欲を持って取り組むことができているので、今後も上手に信頼関係を築いていきたい。また、相撲は体と体が接触する競技となるので、日頃のウォーミングアップ等で生徒同士のスキンシップを図りたい。

実技指導協力者の活用を通して、臨時免許で保健体育科の授業を受け持つ教師による安全かつ効果的な柔道の授業実践例と多様な武道授業の展開

学校名 伊東市立対島中学校（静岡県） 1学年
全校生徒数 292名（男子141名 女子151名）
種目等 武道（柔道・少林寺拳法）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0557（53）0046
学校メールアドレス tajimajh@carrot.ocn.ne.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 臨時免許で体育授業を受け持つ教師が、安全かつ効果的に指導できるようにする方法を知る。
- (2) 専門的な指導者による実技指導や模範演技により、生徒の柔道への興味・関心・意欲を高める。
- (3) 少林寺拳法の体験授業を行うことで複数の武道に触れ、日本古来の伝統文化の共通点や相違点に気づき、武道への興味・関心を高める。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 担当教師が臨時免許であることから、柔道経験および指導経験がないこと。
- ② 安全に留意した実技指導や場の設定に不安があること。
- ③ 生徒の柔道への興味・関心・意欲がさほど高くないこと。
- ④ 男女共習による柔道の効果的指導方法についての知識がないこと。

(2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫

- ① 授業前に、指導内容や安全について実技指導協力者と打合わせを行い、共通理解を図る。
- ② 担当教師がT1として授業を進めるが、実技指導等についてはT2として実技指導協力者が全体への指導を行い、担当教師が生徒個々へのサポートをする。
- ③ 模範演技など生徒の意欲につながるものを実技指導協力者が行う。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 畳の周囲にマットを敷くとともに、隙間が空いていないか随時確認するようにした。
2. 授業前に爪の長さや女子のヘアピン等について確認し、怪我の防止に努めた。
3. 体格や性差を考えた、ペアやグループを作るようにした。
4. 常に怪我防止の視点で実技中の生徒の様子を観察し、異常がないかどうかを確認した。
5. 実技指導協力者が模範を示す中で、怪我につながるポイントを具体的に説明した上で生徒が練習を行うようにした。

○成果の意義と今後の課題

1. 柔道着の着方、礼儀作法、具体的な技術指導や安全指導等、専門家ならではの分かり易い指導をしていただき、参考になった。
2. 少林寺拳法を体験し、柔道との共通点や相違点を学ぶことで、武道への関心が高まった。
3. 専門家の指導を受けたり、模範演技を目の当たりにしたりすることで、生徒の柔道・少林寺拳法に対する興味・関心や安全に注意しながら行う気持ちが高まった。
4. 実技指導協力者による指導を参考に、協力者が不在の授業においても、安全に考慮した指導を行えたことで、怪我なく柔道の授業を行うことができた。
5. 実技指導協力者に来ていただく少ない時数の中で、いかに男女差や生徒の実態に合わせた指導を行えるようにできるかが今後の課題である。

○研究内容

柔道【安全に留意した量とマットの使用】

畳の周囲にマットを敷くとともに隙間のないように注意した



柔道【礼儀作法についての指導】

柔道着の着方や礼の仕方についての具体的な指導



柔道【怪我防止のポイントを具体的に指導】

手の付き方等, 怪我防止のポイントを示した指導



少林寺拳法【特色ある武道指導】

少林寺拳法の体験授業



【生徒の武道への興味・関心・意欲の向上】

専門的な指導者による実技指導や模範演技の効果

授業後にA～Dの4段階で生徒にアンケートを行ったところ、「礼儀作法や受け身の仕方、技の掛け方などが分かり易かったですか。」については96.6%、「柔道への興味・関心・意欲が高まりましたか。」については74.6%、「安全に怪我なく柔道の授業ができましたか。」については96.6%、「柔道の授業に協力者が来てほしいですか。」については89.9%がA, B評価であった。また、「礼儀作法が分かり易かった。」「また来てほしい。」「体育は苦手だが頑張っていきたい。」「実際に手本を見せてくれたりアドバイスをしてくれたりして良かった。」などの感想も挙げられており、専門的な指導者による実技指導や模範演技を取り入れたことで、生徒の柔道への興味・関心・意欲が高まったことがわかる。

【臨時免許で体育授業を受け持つ教師でも、不安なく行える柔道の授業】

担当教師と実技指導協力者のチームティーチングによる授業の効果

臨時免許で体育授業を行う教師は、体育担当教師と連携を図りながら授業に臨む。その中で、武道の指導となると、陸上競技や球技等とは大きく違い、礼儀作法や実技指導、安全面での配慮等、1人で授業を行うには大きな不安が伴う。しかし、専門家である実技指導協力者とのチームティーチングで授業を行うことで、不安なく授業に臨むことができた。また、礼儀、実技指導等は協力者に全体指導を行っていただく一方で、生徒の実態を把握している担当教師が、個々の生徒や学級の特性に合わせて支援をしたり、授業の進め方を考えたりできたことで、効果的な指導ができた。今後は臨時免許の担当教師が武道指導を行う授業はもちろんのこと、臨時免許の担当教師が行う武道以外の授業においても、競技の専門家とのチームティーチングを取り入れるなどの方向性を探っていきたいと考えている。

実技指導協力者の活用による多様な武道授業の展開と教師の指導力を高めた実践例

学校名 沼津市立片浜中学校（静岡県）1. 2年
全校児童生徒 202名（男子 100名 女子 102名）
種目等 武道（柔道・合気道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 055（962）1556
学校メールアドレス t3150@numazu-szo.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 技の説明や技能ポイントを分かりやすく解説していただけることから、実技の指導において生徒の実態に応じた段階的指導方法を研究する。
- (2) 担当教師の指導力向上のために、実技指導協力者の授業中の効果的な関わり方について研究する。
- (3) 合気道の体験授業を実施することで、伝統文化への理解を深め、武道に対する興味・関心を高める。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

担当教師が柔道の指導経験が少ないことから、安全に配慮した技のかけ方や受け身の仕方などの指導に課題がある。

(2) 具体的な取り組み内容・方法、取り組みを進める上での工夫点

- ① 授業前に本時の指導内容について実技指導協力者と打合わせを行い、指導ポイントについて確認をする。
- ② ポイントとなる部分をカメラにとり、授業後の振り返り時や指導に活用する。
- ③ 学習プリントに技の理解度や達成度について自己評価する項目を設定し、技能の上達度の確認ができるようにする。
- ④ 実技指導協力者と2人体制で行うことで、教師が指示を出し、実技指導協力者が細かいポイントの説明や模範を示すことができ、生徒が柔道熟練者の技を見ることで、意欲・関心を高める。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 市教委から配布された滑り止めを使用し、畳が滑らないようにした。
2. 畳の上の人数を考え、練習ごとに配置を工夫した。特に簡易な試合を行う際は、畳の上の人数を減らし、けがのないよう配慮した。
3. 段階に応じて、畳の周りにマットを敷き、畳から落ちても怪我をしないよう配慮した。

○成果の意義と今後の課題

1. 技の説明や示範について、ポイントを押さえながら分かりやすい説明があり、指導経験が少ない者にとってとても参考になった。また、生徒も専門家からのアドバイスや示範を見ることで、柔道や合気道のすごさや日本の伝統文化を大切にする心を学ぶことができた。
2. 指導ポイントについて、専門家から学べたことで、その後の振り返りの指導など自信を持って行うことができた。そのため、生徒の授業中の意欲・関心も大いに高まってきたように思う。
3. 生徒は安全の配慮や怪我をしないためのポイントを学べることで、受け身動作の重要性を理解し、教師は事故無く授業を進めることができた。

○研究内容

柔道【礼法を重んじた指導】

説明文：「礼儀や基本を大切にす」授業



柔道【段階に応じた指導】

説明文：2年生男女受け身の指導



柔道【段階に応じた指導】

3年生男女前回り受け身の指導



合気道【特色ある武道指導】

専門家による示範



【意欲的に取り組む生徒】

専門家による柔道・合気道の指導

昨年度も柔道は有段者からの指導を受けていたということで、今年度は進んだ段階での指導をお願いした。2・3年生については、背中合わせで長座の姿勢からの簡易なゲームを行うことができた。また、その試合を団体戦とすることで、生徒の仲間を応援しようとする姿勢や二人の組み方を見てどんな技がかけやすいかやかけられたときの返し方についてアドバイスを送る姿が見られた。試合のルールも学ぶことができた。試合のルールを学ぶことで、授業の導入で行った礼法の大切さを再確認することができた。相手がいるから試合ができ、負けても勝っても相手に敬意を示すことを実践できた。

合気道では、専門家による示範がダイナミックであり、生徒達が歓声をあげて見ていた。合気道は1時間であったが、興味や関心は持てたと感じた。

【専門家から学ぶ授業】

教師が安全に行うポイントを理解することの大切さ

実際に柔道の授業を行ってみると、専門用語が難しかったり、安全に配慮しているつもりが専門家から見るともっと配慮すべきことがあったりと、新たに理解した部分があった。柔道や合気道では生徒たちも相手と組むことで楽しさを味わっていると感じた。その楽しさや興味・関心を味わわせるためにも教師がしっかりと安全に行う注意点をしっかりと理解し、勉強しておかなくてはならないと改めて感じる事ができた。専門家との授業は、とても有意義であり、勉強になった。

体育授業（なぎなた）における

基礎・基本の徹底

～外部指導者から学び、伝えていくこと～

学校名 明石市立衣川中学校（兵庫県）全学年

全校児童生徒数 459名（男子247名 女子212名）

種目 武道（なぎなた）

（本事例に係る問い合わせ先）

電話番号 078（918）5855

学校メールアドレス kinu-jhs.hyogo.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者の持つ専門的な技術を教師が習得し、生徒に専門的に伝え、効率的に習得させる。
- (2) 講習会を開催し、なぎなたの特性を把握し、指導及びつまずきのポイントを確認する。
- (3) 怪我をしない安全な指導や専門的な知識の習得及び指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

なぎなたの指導経験のない教師では十分な授業効果が期待できない。そこで、指導者としての視点を学び、つまずきのポイントを知ることで、生徒の意欲や技能の向上につなげる必要がある。

(2) 期待される成果（仮説）について

基礎・基本を正しく学ぶことで武道を楽しむことができ、向上心が芽生える。外部指導者の模範演技、専門的なアドバイスや指導は、ICT教材にはない「本物」をその場で体験する事ができ、大きな関心をもつことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 授業のポイントや展開を外部指導者に提案し、助言を仰ぐとともに、教科体育として、授業の主導は教師が行うことでの理解を得た上で指導にあたった。
- (2) 打合わせで、技能のポイントをあらかじめ確認できたことで適切な指導ができた。また、模範演技は外部指導者を活用することで、正しく学ぶことができるようにした。
- (3) なぎなたを実施する上で、教師と外部指導者のT.Tの展開が可能となり、教師間の指導差を少なくすることができた。また、授業終了後にも教師と外部指導者の打合わせが十分にできたことが、指導に対する不安を取り除くことにつながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫したこと）

1. 音を出さずになぎなたを大切に持ち運ぶこと、必ず右手で持つこと、並べ方や取り方など、なぎなたの取り扱い方について徹底して指導した。
2. 一切私語をさせず、常に緊張感を持たせ、聞くこと、見ることに集中させ、武道に対する姿勢や理解を深められるよう指導した。
3. 外部指導者とのT.Tで個別指導にも配慮し、細かな指導に心がけ、正しく安全になぎなたを扱えるよう指導した。

○成果の意義と今後の課題

1. なぎなたの授業を通して、挨拶（立礼）や履物を揃えるなど、体育の授業以外にも変化が見られ、学校生活で活かしていこうとする姿が見られた。
2. 外部指導者とT.Tで行うことは、つまずきのある生徒にきめ細やかな指導が可能になり、生徒が達成感を味わうこと、向上心を持つことにつながった。
3. 外部指導者と事前の打合わせができたことで授業の展開や計画を密に立てることが可能となり、安全で段階的に授業を進めることができた。

○研究内容

【始まりと終わりの風景】
黙想による精神統一



【外部指導者による指導】
模範演技を真剣に見る姿



【学習シート】
気づいたポイントを記入させる



【授業風景】
技のポイントの共通理解をさせる



【なぎなたに関するアンケート】
授業実践後の生徒の意識調査

アンケート対象：全校生徒 男子228名 女子208名 合計436名
 アンケート項目：1 なぎなたの技能は高まったか。(91.5%)
 アンケート項目：2 なぎなたの礼法は身に付いたか。(98.1%)
 アンケート項目：3 なぎなたの授業は学校生活でいかせると思うか。(94.4%)

【本事業終了後の学校の取り組みの方向性】
体育科教師が授業を創り上げるために

経験のない教師で、新しく「なぎなた」を生徒に指導することに取り組んだが、外部指導者の活用により、技術指導やポイントの解説を受けたことで指導力や専門的知識の向上を果たすことができた。教師も自ら学ぶことでポイントやつまずきに直接触れることができ、生徒に対する指導を工夫することができた。外部指導者の果たす役割は多岐にわたるが、指導はあくまでも教師が主導で主体的に行うという展開の理解を得た上で、打合わせ時に様々な助言をいただいた。また、専門的スキルを有する外部指導者の模範演技は、その場にいる生徒に緊張感や臨場感を味わわせることができ、理解度の高い授業を展開する一助となった。今後は武道「なぎなた」の持つ教育効果を学校の教育活動に生かし生徒を育てるとともに教師の指導力向上に研鑽していきたい。

外部指導者を活用した、技能を高める効果的な弓道学習の実践

学 校 名 高原町立後川内中学校(宮崎県)第1学年

全校生徒数 13名(男子7名 女子6名)

種 目 等 武 道 (弓道)

(本事例に係る問合せ先)

電 話 番 号 0984(42)1083

学校メールアドレス ushirokawachi-jc@miyazaki-c.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 弓道の経験のない教師の指導技能を高める。
- (2) 外部指導者の専門的な指導・支援により、第1学年生徒の弓道の基本技能を高める。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

教師が未経験なので、細かな技術指導ができない。また、限られた時数の中で、的を射る楽しさを味わわせなければならない。

(2) 期待される成果(仮説)について

外部指導者の専門的な知識や技術が教師の指導力を高め、さらに、外部指導者と教師が連携した指導・支援を行えば、生徒が弓道の特性に触れ、弓道の楽しさを味わうことができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法・取組を進める上での工夫点等

(1) 効果的な弓道学習の場の設定

弓道場がないので、天候に左右されずに実施できる体育館を弓道場に見立てて場を設定した。的は畳に掛け、本座・射位の場も木札で示した。また、道具一式を整頓し、片付けや準備が素早くできるようにした。さらに、DVDによる学習ができるように、常時DVD機器を設置した。

(2) 外部指導者によるきめ細かな個別指導

生徒7名を男子・女子の2グループに分け、一人一人の射法八節について細かにチェックできるようにした。教師は外部指導者の個別指導にできるだけ立ち会い、細かな技術について理解を深めた。

(3) 学習の見通しと毎時間の反省と工夫改善

年間の体育学習のファイルの中に弓道学習のワークシートと参考資料を綴じた。事前に外部指導者と数回打合わせ、学習内容及び学習の流れを確認し、弓道学習の1時間目に全10時間分の学習内容を示し、生徒に見通しをもたせた。また、毎時間の生徒の反省や感想から、次時の指導方法や指導時間等を外部指導者と打合わせ、生徒の意欲や技能がより高まるように授業計画の見直しや改善を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1. しっかりとした準備運動や補強運動を行い、本学習に入るようにした。
2. 矢を人に向けない、的場には合図があってから入ることなど安全に関する指導を徹底した。
3. 行射をグループごとに行い、安全を確認した上で次のグループの行射に移るようにした。

○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者の礼法や射法八節の細かな指導により、生徒は弓道の特性に触れ、基本技能を身に付け、的を射る弓道の楽しさを味わうことができた。
2. 単元計画の打合わせや授業後の反省、工夫改善を行ったことで、教師も弓道の指導技能を高めることができた。
3. 次年度以降も弓道学習が継続するので、生徒の意欲を更に高められるような、弓道学習の計画や場の設定が必要である。

○研究内容

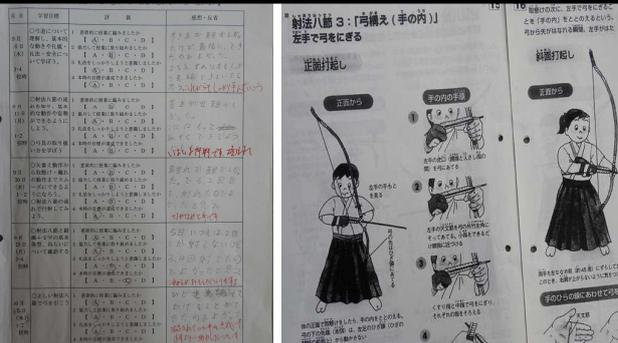
【弓道学習場の場の設定】
DVD機器の設置等



【弓道学習場の場の設定】
射場・的場の設置



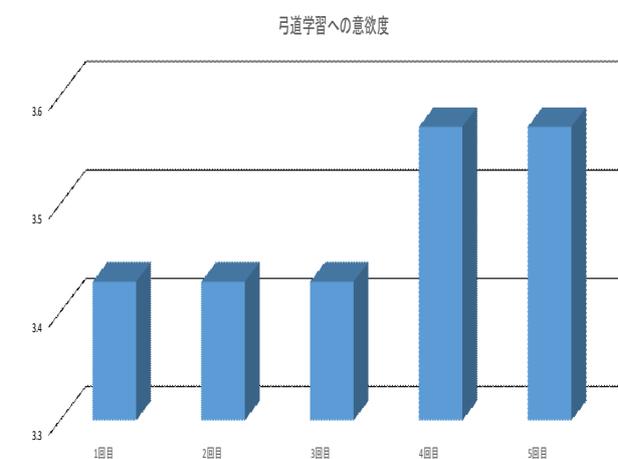
【学習資料の工夫】
弓道全時間を見通せる学習カードと参考資料集



【個別指導】
外部指導者による細やかな個別指導



【弓道の楽しさ】
生徒の授業に対する意欲度と弓道学習を終えての感想



左の図は、生徒の意欲度のグラフで、4段階の自己評価で平均値で示している。5回2時間の授業で、後半の2回は意欲度も高くなっている。

【生徒の感想】

- 初めての基本姿勢や動作はとても難しかった。次回は弓と矢を使っての練習なので、基本をしっかりと覚えたい。
- 離れが難しかった。でも2回目で射れたので良かったと思う。
- 今日は、最後でしたが、1回だけの的に当てる事ができて良かったです。来年度もしっかりと射ることができるようにしていきたい。

【納射会】
まとめの納射会



全校でダンスに取り組み、子供の動きの高まり、教師の指導力の高まりを目指した実践例

学校名 真室川町立真室川あさひ小学校（山形県）1～6年生
全校児童生徒数 66名（男子29名 女子37名）
種目等 表現運動&体ほぐしの運動（ダンス）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0233（63）2351
学校メールアドレス ark-eo@vega.ne.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 子供たちが楽しみながらダンスを踊ることができる。
- (2) いろいろなダンスステップ（動き）やグループ毎に自分たちでダンスを考え、踊ることができる。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

子供たちの現状から、実際にヒップホップダンスを見たり踊ったりする機会がなかなかない。

(2) 期待される成果（仮説）について

① 子供たちにとって

- ・ヒップホップダンスに触れ、ダンスの楽しさを知り、楽しく踊ることができる。
- ・いろいろなステップや動きができる。

② 教師にとって

- ・いろいろなステップや動きを知り、動きのバリエーションを増やす。
- ・指導の仕方を参考にして、今後の「体ほぐしの運動」や「表現運動」の授業づくりに生かす。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 子供の実態を受けて運動の積み重ねができるように、可能な限り毎年継続して同じ外部指導者に指導していただく。
- (2) ペアやグループを活用したり、子供たちがダンスの動きを考えたりする。
- (3) 全校生でのダンス発表会を行う。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 今まで行ってきた体ほぐしの運動等を取り入れながら、心も体もほぐして温めてからダンスの運動に入ることができるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1. 子供の実態を見ながら教える動きと子供たちが考える動きをバランスよく両面を取り組んでいくことの良さを実感した。自分たちで動きを考えたり決めたりしていくことは、思考力アップにもつながると感じた。
2. 新しい動きを教師自身が身に付ける機会であった。教師も、発表会に参加するために子供と一緒に取り組んだことは、実感を伴って動きを身に付けるには効果的だった。外部指導者の動きを動画に撮ったことで、動画をお手本として動きの確認等ができた。
3. 継続して指導していただいていることの良さや課題の両面があるので、マンネリ化しない手立が今後必要になってくる。

○ 研究内容

【ペアで遊びの要素を入れながら楽しむ】

ペアで動きを楽しみ動きの高まりを目指しました。



【グループで合わせて動きづくりを楽しむ】

リズムと仲間の動きに合わせて合わせることを大切にしました。



【グループで動きを考えて楽しむ】

グループの仲間と動きを考えて楽しみました。



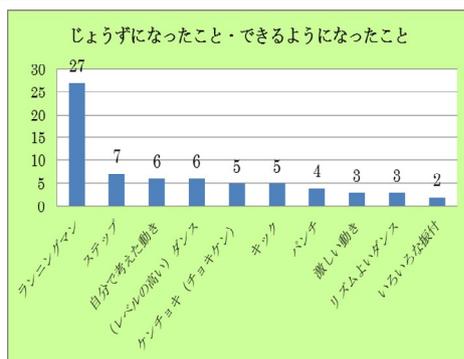
【全校発表会でダンスを楽しむ】

全校生、全教職員、保護者の前で発表会を行いました



【様々な動きができるようになったことを実感！】

子供ができるようになったことを自覚し、ダンスへの関心が高まりました。



【子供たちのアンケートから】

- ダンスについて「とても好きになった 74.1%」「好きになった 25.9%」と全ての子供がダンスへの関心意欲が高まった。
- できるようになったことを、子供たちがそれぞれ文字や絵で表現していた。自覚ある学びが分かる内容だった。

【子供たちの感想から】

- ・先生が教えてくれてダンスが楽しくなった。(1年)
- ・体を大きく動かすことができるようになった。(3年)
- ・自分たちで動きを決めるところを練習して上手に発表できた。(5年)

【ダンスの指導の充実から次の単元へつなぐ】

高まった動きを次の単元に生かすことを大切にしてい

子供たちは、ダンスをきっかけにしてリズムや友達の動きに合わせて、動きを考えること、動きを切り替えること等を学ぶことができ、動きの高まりが見られた。音楽に合わせて体を動かす楽しさ、喜びも実感することができた。このことを生かして、表現運動の領域ですぐに思考、判断して動きを作り出したりすること、群の動きにつなげたりすることができるように単元を構想していく。

地域の指導者による指導力向上実技研修会を開催し、教師の指導力を高めた実践例

京都府教育委員会

種目等 ダンス

(本事例に係る問合せ先)

電話番号 075(414)5867

E-mail s-kawata31@pref.kyoto.lg.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 中学校ダンス必修化を踏まえ、専門的指導者の協力による、本府中学校等保健体育科教師のダンス授業の指導力向上を図る。
- (2) 現代的なリズムのダンスを中心に、創作ダンスの要素を取り入れた指導の習得と、みんなで体を動かす楽しさや喜びを生徒に味わわせる指導法を習得する。

2. 実践研究の概要

本府保健体育科主任会議のアンケートによれば、創作ダンスを実施の学校が53%であるのに対し、現代的なリズムのダンスを95%の学校が実施している。そのため、現代的なリズムのダンスに重点を置き、創作ダンスの指導に繋げる内容とする研修とした。

JDAC(ダンス教育振興連盟)から講師を派遣いただき、学習指導要領に基づいた内容で、ダンスの指導方法に重点を置いた実技と講義を実施し、生徒とのコミュニケーションの取り方や、ダンス理論、指導上の留意点、安全対策など、「ダンスが上手く踊れなくてもダンスの指導ができる」内容とした。また、講師と受講者との意見や情報交換を行う時間を設けた。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 「ダンス指導のためのリーフレット」(スポーツ庁HPより)等を参考に、具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 取組内容

- ・ 実技指導とともに講義及び研究協議を実施
- ・ 研修内での資料を用いて、研修の振り返りや研修後の授業工夫・改善を促した。

(2) 取組を進める上での工夫・改善

- ・ 講師の選定においては、学習指導要領を十分理解して指導できる講師とした。
- ・ 授業に即した内容となるよう、事前に講習内容を打合わせた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)すべきこと

1. コミュニケーションを取りやすい授業環境づくりが大切
2. ダンスにおける動作の習得とあわせてけがの予防を目指したストレッチングを実施
3. 活動場所の環境整備や体調管理のための水分摂取機会の確保

○成果の意義と今後の課題

1. 成果

- ・ 各種ダンスの歴史や系統性についての知識を学ぶことで、ダンスの特性を理解できた。
- ・ イメージをとらえた表現や踊りによる交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする授業の実現に向けて、現代的なリズムのダンスの指導だけでなく、創作ダンスの指導の導入までの研修内容となった。
- ・ 研究協議により、共通した課題について情報交換ができた。

2. 課題

- ・ ダンスの「指導と評価の一体化」について、研修内容から各自の授業実践に繋げる工夫が必要である。
- ・ 実施時期や実施方法の改善により、参加者の増加を図る必要がある。

○研究内容

【授業の組み立てについて】

学習指導要領の内容を踏まえた指導



【小グループでの学習】

楽しさや喜びを生徒に味わわせる工夫



【創作活動】

作品作りのポイントを確認しながら創作



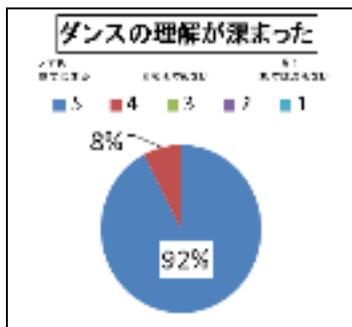
【対話的活動（相互評価）】

ペアの動きをチェックして、伝え合う場面



【受講者の満足度の向上】

受講者に事後アンケートを実施



- ダンス授業への自信がもてるようになった。
- ダンスを踊るとのことばかりが目がいき、技能を求めてばかりいたが、「楽しむ」と「学ばせる」手法を教えていただいて、新たな発見があった。
- リズム感がなくダンスに対する苦手意識があったので、不安な気持ちを持ちながらの講習会参加だったが、基本知識と指導方法を学べてよかった。実りのある講習会だった。
- 「出来た！」と思えるパターンを少し工夫するだけでいくらかでも膨らませることができると思った。

【指導と評価の一体化について】

実技研修会を活用した研究協議等の在り方について

今回の講習では、発表会での評価方法について具体的な内容の提示とともに、受講者間で相互評価を行った。実際の授業での評価の在り方やその手法について、受講者間で実際の授業での手法や本講習会で得た手法を交流するなどして、授業に生かせるものを確立していく必要がある。保健体育科教師が自信をもってダンス授業ができるよう、積極的な参加を促進できる研修会等の立案や計画、また他の教師への伝達方法等を検討していく必要がある。

**教師の授業力を高める実践例
～ダンス研修・ダンス授業研究会を
通しての検証～**

教育委員会名：島根県教育委員会

種目：ダンス

(本事例に係る問合せ先)

電話番号：(0852) 22-5426

メールアドレス：hotai@pref.shimane.lg.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 島根県学校ダンス指導者研修会や島根県教育委員会が実施した中学校ダンス研修会が教師の授業づくりに役立っているか検証する。
- (2) 小学校、中学校、高等学校の異校種の教師による授業研究会を通して、児童・生徒の発達や実態に応じた系統的な指導方法を探る。

2. 実践研究の概要

- (1) 中学校保健体育教師の約6割が大学でダンスの履修を受けないまま教師になっている。また、小学校教師の約7割、中学校教師の約8割が表現・ダンスの指導がしにくいと回答している。
- (2) 教師の要望や困り感に沿った授業形式の研修を実施することによって、教師の表現・ダンスの抵抗感を減少させ、指導力を高めることをねらいとする。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) ダンス研修の受講者に事前アンケートを実施して、困り感、研修で実施してほしい内容、ダンスに対する意識調査を行い、受講者の要望に沿った研修を実施。
- (2) ダンス研修後に研修内容を基に授業を実施したかどうか、研修の成果と課題の追跡調査を実施。
- (3) 研修を受けた小学校教師、中学校教師、高等学校教師による授業研究会を開催。
 - ① 小学校、中学校、高等学校、大学教師による異校種の授業研究会を実施する。
 - ② 島根県教育委員会による継続型の指導(授業前の指導案検討、授業研究会、事後指導)を実施し、授業者の指導力の向上を図るとともに各校種別のリーダー育成を目指す。
 - ③ 異校種の授業研究会を通して、児童生徒の発達の段階に応じた系統的な指導方法や課題を探る。

○教師の指導力を高めるために配慮(工夫)したこと

1. 研修では、事前アンケート調査から受講者が持っているレベルや要望を把握し、「多様な動きを引き出す方法」、「作品作りのポイント」、「授業で活用できるネタの習得」など実際の学習過程をイメージした内容の研修を実施した。
2. 実技では、受講者を生徒役に見立て、講師が教師役となり①受講者自身がダンスを楽しむ②対話を通して生徒の考えを引き出すことを心がけた。生徒の実態に応じた授業づくりの方法を指導することで、生徒理解、言葉がけの大切さを理解してもらう。

○研修と授業研究会の成果

1. 平成27～29年度の中学校体育教師ダンス研修に参加した教師の70%が研修を元に授業実践を行い、その内96%が「大いに役立った」、「役立った」と回答している。
2. 異校種による授業研究会では、児童生徒の創作活動を活性化させるために、ICTの活用や有効なグループ活動が見られた。研究協議でも生徒の実態に応じた指導法について、異校種間で意見を出し合うことができた。

○研究内容

【授業に活用しやすい内容を紹介：教員研修】

前の人の動きをコピーしてつなぐ



【学習した内容が作品に：教員研修】

学習したことを取り入れて作品づくりに



【授業研究会：小学校】

ICTを活用してイメージした動きづくり



【授業研究会：高校】

生徒リーダーを中心とした作品作り



【研修後のアンケートによる追跡調査結果】

研修後の生徒の変容と教師の意識変化

研修前の事前アンケートでは、「授業ですぐに活用できる」研修という要望が多かったため、どの校種でも活用できるような内容を講師の先生にお願いした。研修後の追跡アンケートでは、95%の参加者が授業づくりに役立ったと回答した。また、ダンスの授業に対して自分自身の変化については、「授業の組み立て方が変わった」36%、「自分のダンスへの抵抗感が減った」33%、「授業の導入の仕方を工夫した」「授業の雰囲気づくりを工夫した」30%という結果であった。

また、異校種の授業研究会の授業者にアンケートをとった結果、「ねらいを達成するための手立てを工夫した」「生徒主体の活動を目指して計画を立てた」など、単元全体を見通した立案やねらい達成のための学習形態や教具の工夫が見られた。

【ダンス研修の成果】

ダンス研修と授業研究会を通して見えてきたもの

3年間のダンス研修を通して、約9割以上の中学校体育教師がダンス研修を受講した。その結果、研修で経験した内容を授業に活用し、PDCAサイクルを繰り返しながら、年々ダンス授業の質が向上しているように感じられる。

○新学習指導要領を踏まえたり、新しい内容の研修を実施したりして、現場の要望やニーズに応えられる内容の研修や授業研究にしていきたい。

外部指導者を活用し、現代的なリズムのダンスの指導力を高めた授業実践例

学校名 吉野ヶ里町立東脊振中学校（佐賀県） 1年

全校児童生徒数 190名（男子105名 女子85名）

種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0952（52）2529

学校メールアドレス higashisefuri-j@mail.saga-ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者と連携し、踊る楽しさを味わわせる現代的なリズムのダンス授業の在り方を探る。
- (2) ダンス授業における教師の指導力と資質向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① ダンスに対して、意欲的な生徒と苦手意識をもっている生徒が混在する中、踊る事への抵抗感を軽減し、楽しみながら活動させるための手立てをどのようにしていくか。
- ② 外部指導者との連携による教師の指導力向上をどのようにして図っていくか。

(2) 期待される成果（仮説）について

ティームティーチングによる指導で、苦手意識のある生徒に対して、きめ細やかな指導や助言ができ、踊ることの楽しさや交流することの楽しさを味わわせることによって、生徒のダンスに対する肯定感が高まるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 楽しく踊るための指導内容の工夫

- ① 準備運動にE Xダンス*¹を導入し、楽しみながら心と体をほぐすとともに、基本的なステップや動きの習得にも役立たせることができた。
- ② Z U M B A *²を導入し、全員一緒に、毎回違った簡単な動きを行うことで体を動かすことの楽しさを味わせた。また、授業後半の交流活動に生かせる材料となった。

(2) 外部指導者による曲に合った動きやステップの指導

- ① 生徒の興味に合った選曲を行い、外部指導者が曲に合った動きやステップを選択し、教師とともに段階的に指導を行った。
- ② 曲の前半では外部指導者及び教師から動きやステップを提示し、曲の後半ではZ U M B A等で学習した動きやステップを取り入れ、交流活動を行わせた。

*1 NHK Eテレ「Eダンスアカデミー」内で紹介されたダンスで、ダンスの基本的な動きを取り入れており、22種類の動きで構成されている。

*2 フィットネス・プログラムの名称であり、主にラテン音楽によってエクササイズが行われる。インストラクターが事前に振り付けについて説明せず、ダンスの振り付けの正確性を競うものではないことが特徴である。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 準備運動に、EXダンスを導入することで、楽しみながら心と体をほぐすことができた。
2. ダンスでは回転をしたり、別方向に動いたりする動きが混在するので、グループごとに活動場所を指定し、生徒同士の接触がないように配慮した。

○成果の意義と今後の課題

1. EXダンスを導入し、楽しみながら心と体をほぐすとともに、基本的なステップや動きを習得することができ、ダンスが苦手と感じていた生徒も意欲的に踊ることができた。また、ZUMBAを導入することで、リズムに乗って体を動かすことの楽しさを味わわせることができた。今後は、生徒の興味を引き付ける導入のパターンを増やすことが課題である。
2. 外部指導者の曲に合った動きやステップの選択や段階的な指導方法は、教師にとって大変参考となった。今後は、更なる外部指導者の専門的知識や技能の活用と、教師の段階的な指導技術の習得が課題である。

○ 研究内容

【指導内容の工夫①】

準備運動にEXダンスを導入し、基本的なステップ等の習得



【指導内容の工夫②】

ZUMBAを導入し、動くことの楽しさを伝える



【段階的な指導】

グループ別に、アドバイスをを行う



【発表会の実施】

互いの成果を発表し、認め合う

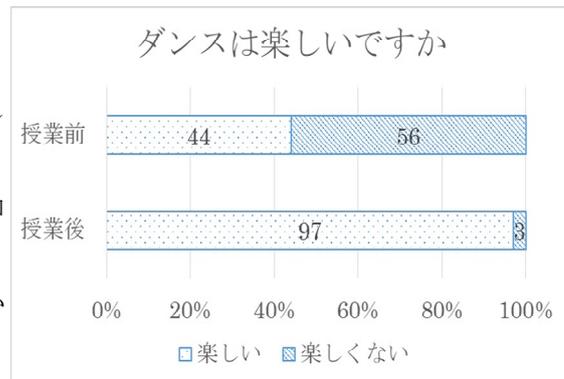


【授業前後のアンケート】

授業前と後でのダンスへの興味・関心の変化

授業前ダンスが楽しくないと思っていた生徒は56%で、その理由は「苦手だから」「難しい」などがあった。

授業後は、ほとんどの生徒が楽しいと気持ちに変化していて、その理由は、「ZUMBAがおもしろかったから」「苦手な人でもできることが多かったから」「曲が知っている曲だったから」などがあった。また、「初めは嫌だと思っていたが、実際に踊ってみるととても楽しかった。」という意見もあり、達成感を感じている。



【今後の展望】

生徒が達成感を味わうことのできる授業を目指して

本授業では、生徒に体を動かすことの楽しさや喜びを感じさせることに重点を置いて授業を展開した。特に外部指導者と連携し、ウォーミングアップにZUMBAを取り入れ、色々な国の音楽やリズムに合わせて踊ることで楽しさを感じた生徒が多かった。

1年生は、今回初めて授業でダンスの学習に取り組んだため、指導者が考えた振りを覚えて後半部分をグループで創作するという形態で取り組んだ。それぞれ協力して意欲的に活動し、見せ合う場面でも互いにアドバイスをする姿が見られた。リズムに合わせて体を動かすことの楽しさを味わわせることができたため、次年度以降は、自分たちで選曲から行い、1曲創りあげるという経験をさせていきたいと考えている。

創作ダンスの楽しさを実感させるため外部指導者と連携した授業実践例

学校名 延岡市立島野浦中学校（宮崎県）1・2・3年

全校生徒数 14名（男子8名 女子6名）

種目等 ダンス（創作ダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0982（43）0803

学校メールアドレス kj4714a@miyazaki-c.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 優れた技術をもつ外部指導者によって、生徒のダンスへの興味・関心を高め、技能の向上を図る。
- (2) 外部指導者との連携により、授業内容の充実を図るとともに、教師の指導力向上を目指す。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 保健体育科の授業において、他の単元と比較すると興味・関心が低い。また、自分の演技を発表することに非常に抵抗感をもっている生徒が多い。
- ② 保健体育科教師の指導歴、研修歴が浅く、充実したダンス指導を展開することが難しい。

(2) 期待される成果（仮説）について

優れた技術をもつ外部指導者と連携して授業を実践することにより、生徒が専門的な知識及び技能を習得することができ、意欲的な活動につながるであろう。また、教師の指導力の向上も図られるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 外部指導者との事前打合せ

- ① 授業前に事前打合わせを行い、授業の内容と流れを確認し、共通理解を図った。
- ② 教師が指導する際のポイントを、毎時間の計画書の中で提示してもらうことで、指導力向上を図った。

(2) 指導内容の工夫

- ① 全校一斉指導のための発達の段階を考慮するとともに、個に合った指導に心掛けた。
- ② 恥ずかしさを払拭するため、相手の動きや考えを否定せず、認め合う指導を徹底した。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 本事業を学校全体の取組として捉え、全職員に参加の協力をお願いし、バックアップ体制を取った。
2. 熱中症を防ぐため、適宜水分補給をしながら、授業を進めた。
3. 相手との接触が無いように、十分なスペースを確保し、相手の安全も考えられる指導を行った。

○成果の意義と今後の課題

1. 外部指導者による指導で、ダンスの楽しさを味わうことができ生徒の興味・関心が高まり、技能が向上した。小中合同運動会と文化祭でその成果を発揮することができた。
2. 教師にとって、ダンスの指導方法や授業展開に触れることができ、それらを身に付ける研修の場として大変意義があった。
3. 6時間という短い時間で、外部指導者の先生には大変迷惑をかけた。日程調整や年間指導計画の見直しを図り、より意義のあるものにしていく必要がある。

○ 研究内容

【ウォーミングアップ】

タッタダンスを踊り、体をほぐす



【ダンスの動きを覚える】

全体の動きを曲に合わせて踊る



【4つのくずしについて】

空間・リズム・身体・人との関係を感じる



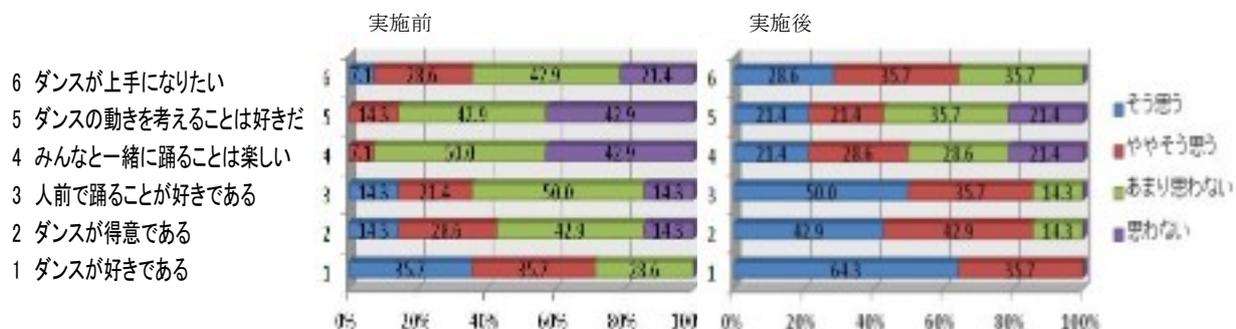
【グループ発表】

オリンピック選手の好きな写真を選びまねをする



【ダンスに関するアンケート】

授業実施前と実施後のアンケート結果



【本事業の実施を振り返って】

アンケート結果よりダンス指導者活用の有効性

- アンケート結果からも分かるように、授業の実施前と実施後では、ダンスに対する興味・関心が大きく変わった。人前で踊ることにとっても抵抗感をもっていたが、地域の方々の前で堂々とダンスを披露し、素晴らしい評価を得られた。これは、生徒がより専門性の高い外部指導者の指導を受け、技能はもちろんダンスの楽しさを十分に味わったためと考えられる。
- 教師も質の高い指導方法を目の当たりにして、ダンス指導の研修を深めることができ指導力向上につながった。
- 来年度以降も、生徒の興味・関心が高まり、技能が向上すること、高い専門性のあるダンス指導に触れることができるため、継続して活用していきたい。

地域の指導者による実践的な指導により、教師のスキーについて指導力を高めた実践例

学校名 山形市立村木沢小学校（山形県）3・4年
全校児童生徒数 107名（男子53名 女子54名）
種目等 スキー
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 023（643）2240
学校メールアドレス school@murakizawa-e.ymg.ed.jp

1. 実践研究のねらい

小学校中学年の児童に対してのスキー初期指導について、教師の指導力を高める。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

小学校中学年で初めてスキーを学習する児童について、担任教師が限られた時間の中で効果的な指導を適切に行う際の具体的な指導方法が大変難しい。

(2) 期待される成果（仮説）について

地域の指導者から、具体的に児童を指導する実践場面を通してその指導方法を学ぶことにより、教師の指導力が向上し、児童の意欲と技能の向上につながるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 安心・安全なスキー学習にするための準備運動と、服装・用具についての指導
- (2) 内脚と外脚の使い方を学ぶための、階段登行と開脚登行の指導
- (3) 制動のためのプルークを習得しながらの基礎的な回転技術の指導
- (4) 安全にロープトウを利用し、効率的に山側に移動する方法の指導

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 安全に学習するため、適切に整備され、緩斜面が十分に確保できる山形市少年自然の家スキー場を利用した。
2. 単学級のため、担任外の教師とのティームティーチングで安全の確保に努めた。

○成果の意義と今後の課題

1. 地域の指導者から、具体的に児童を指導する実践場面を通してその指導方法を学ぶことにより、教師の指導力が向上し、児童の意欲と技能の大幅な向上が見られた。
2. 継続的に実施し、教師の指導力を計画的に高めていくことが課題である。

○研究内容

【準備運動と服装・用具の指導】

安心・安全なスキー学習にするための準備運動と、服装・用具についての指導



【動作感覚を学びながら登る技術の指導】

内脚と外脚の使い方を学ぶための、階段登行と開脚登行の指導



【緩斜面でのブルークボーゲンの指導】

制動のためのブルークを習得しながらの基礎的な回転技術の指導



【ロープトウ利用の指導】

安全にロープトウを利用し、効率的に山側に移動する方法の指導



【本事業による取組の成果（意識の変容から）】

児童の実態と地域の状況を十分に踏まえた、地域の指導者から具体的に児童を指導する実践場面を通して指導方法を学ぶことにより、教師の指導力が向上し、児童の意欲と技能の大幅な向上が見られた。

	取組前		取組後
指導者の意識	実態に応じた指導ができる 50%	→	実態に応じた指導ができる 75%
児童の意識（意欲）	スキー学習が楽しい 75%	→	スキー学習が楽しい 90%
児童の意識（技能）	緩斜面を安全に滑ることができる 50%	→	緩斜面を安全に滑ることができる 80%

【今後の学習につなげるために】

本指導者からの継続指導と担任教師の指導力の向上に向けて

翌週に実施する蔵王横倉ゲレンデでのスキー教室でも本指導者の指導を継続し、児童の実態に応じた指導を受けるとともに、担任教師の指導力の向上をさらに目指していきたい。

地域の指導者を器械運動の授業に活用し、児童のスキルアップと教師の指導力を高めた実践例

学校名 庄内町立余目第三小学校（山形県）全学年

全校児童生徒数 226名（男子98名 女子128名）

種目等 器械運動（鉄棒・マット・跳び箱運動）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0234（43）2619

学校メールアドレス amarume3sho@shonaitown.ed.jp

1. 講師招聘のねらい

- (1) 専門性の高い指導者を招聘し、指導者の指導方法を学ぶ。
 - (2) 専門性の高い指導者の指導による児童のスキルアップと意欲の向上を図る。
- #### 2. 学校の体育指導の課題
- (1) 器械運動が苦手な子が多く、個別指導に対応できない。
 - (2) 教師一人では、十分な安全確保ができないため難易度の高い技を指導できない。
 - (3) 体育指導に関する研修会が少ないため、指導の充実が図りづらい。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 外部指導者が実際に児童を指導し、OJTの研修の場を設定
 - ① 逆上がりなど鉄棒指導の段階的な指導のあり方を具体的に教師に対し指導
 - ② 学習の場の設定や教具の工夫について実践を通じた指導
- (2) 一緒に授業に取り組むことでより多くの児童に関わる機会を設定
 - ① 学年・レベルに応じた指導法を研修
 - ② 多人数・T Tで取り組むことによる十分な児童への支援

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 能力に合った技から取り組むように指導した。
2. 人的及び用具による適切な補助を付けるように配慮した。
3. 器械運動の向けてのストレッチを念入りに行った。

○成果の意義と今後の課題

1. 普段の体育の授業では教師が手本となるような動きをなかなかできないため、モデルとなる動きを見せてもらうことで、子どもたちも動きをイメージして取り組むことができた。
2. 外部指導者が楽しんで教えて下さり、児童も楽しみながら器械運動のコツをつかむことができた。
3. 外部指導者から教えてもらった技をその後の学習でも進んで取り組む様子が見られた。
4. 安全に配慮した技の指導や、マット運動でのマットの配置など空間の使い方など参考になった。
5. 補助具の安全な活用の工夫が参考になった。
6. 授業のめあてを共有するために、事前に打合わせの時間を取る必要がある。
7. 第3学年及び第4学年の段階で継続して、外部指導者に指導していただくと学習がより身に付く。

【様式1】2ページ目

○ 研究内容

【いろいろな技に挑戦】

友達同士で技を見合い、教え合う



【肋木を使って逆立ちに挑戦】

個々の児童に合ったレベルで挑戦できる環境作り



【補助具を使って逆上がり】

タオルを補助具として使って、腰を鉄棒に近づける工夫



【後転コーナー】

後転をスムーズに行うために様々な方法で挑戦



【肋木を使っての逆立ち】

外部指導者による丁寧な個別指導



【講師の先生の演示】

外部指導者による丁寧な演示



【全校で取り組む体制作り】

全学年の指導計画を作成する時に、器械運動の学習を11月から12月に位置付け、用具やめあてカードなどの準備を共有化し、どの学年でもスムーズに行える環境を整えていく。

上学年の技を下学年に見せるなどして全校体制で器械運動に親しむ環境を作っていく。

校内研修において、運動環境づくりに取り組み、運動の楽しさを味わい進んで運動に関わる児童の育成を目指した実践例

学校名 伊勢崎市立宮郷第二小学校（群馬県）全学年
全校児童生徒数 761名（男子380名 女子381名）
種目等 全領域
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0270（40）5110
学校メールアドレス miyagoudainisy@isesaki-school.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 学校内外で、進んで運動する児童を増やし、運動の二極化傾向を解消し、体力の向上を図る。
- (2) 体育授業に対して苦手意識をもつ教師を減少させ、運動の楽しさを味わわせる指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

- (1) 「時間」「空間」「仲間」（以下三つの間）の充実した運動環境づくりを通し、児童が運動に触れる機会を確保できるようにする。
- (2) 体力向上コーディネーター（以下体力向上Co）の活用や外部有識者による研修を通して、体育の授業に関する苦手意識をもつ教師の指導力の向上を図る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 三つの間の充実した運動環境づくり

- ① 2校時と3校時の間の休み時間を20分間から25分間に拡大した。
- ② 縦割りで運動を行う「スマイルタイム」を毎週木曜日の時間割に組み込んで実施した。
- ③ 登り棒に印をつけたり、一輪車や竹馬のコースを整備したり、遊具や遊び場の充実を図った。
- ④ 一輪車や竹馬の名人カードを配布するなど、体育委員会が外遊びを促す活動を行った。
- ⑤ 校区内にある公園でできる遊びなどを児童から聞き取り、それを地図に反映させて「親子ふれあいウォーキングマップ」を作成し、家庭に配布した。また、体験談を募集し、それを掲示した。

(2) 体育授業者の指導力の向上について

- ① 体育専科教師は体力向上Coとし、単元構成や場の工夫等の展開例を担当に示した。それを学年で検討し、実践した。必要に応じて、体力向上Coは授業参観し、助言をした。
- ② 立命館大学大友智教授を講師として、授業の進め方について、研修を行った。また、研修時に提供を受けた持久走の展開例を2学期に学校全体で実践し、授業力の向上を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 体育専科教師と学級担任による協議を授業前に行い、指導内容・方法等について共通理解を図った。
2. 運動環境の改善・充実に関しては、児童の目線に立ち、安全面の確認を十分に行うようにした。

○成果の意義と今後の課題

1. 三つの間の充実した運動環境づくりにより、学校評価アンケートでは、年間を通じて、進んで運動に親しんでいると感じる児童・保護者がともに約85%に高まった。
2. 体力向上Coの活用と外部有識者による研修により、体育に関する教職員への意識調査では、授業が得意・どちらかと言えば得意と答えた先生がH28年度末の約35%から約57%まで増えた。
3. 休み時間や昼休みに校庭で楽しく遊ぶ児童の数は増えたが、体力テストにおける評価D・Eの割合は、減少までには至らなかった。より多くの児童が継続的に運動に親しめる環境づくりに努めていく必要がある。

○研究内容

【体力向上 Co の展開例をもとにした授業】

見せ合い授業を繰り返し、課題を明らかにしていった。



【大友教授による研修】

幅跳びと持久走について、実習を取り入れた研修を行った。



【体育委員会の取組】

名人カードの配布、体育フェスティバルの実施を行った。



【親子ふれあいウォーキングマップ】

体験談も児童玄関前に掲示した。



【取組の成果】

運動に親しむ児童、児童が運動に親しんでいると感じる保護者、体育授業が得意な教師が増えた。

(体育以外で運動に親しむ児童)

平成 26 年度 約 4.5%

平成 27 年度 約 6.9%

平成 28 年度 約 8.2%

平成 29 年度 約 8.5%

保護者も約 8.5%が「児童が運動に親しんでいる」と評価しました。

(授業が得意・どちらかと言えば得意と答えた教師)

平成 28 年度末 約 3.5%

平成 29 年度

1 学期末 約 4.0%

平成 29 年度

2 学期末 約 5.7%

【今後の取組】

実践で得たことを、多くの学校に広める活動を通し、たくさんの学校の児童の体力向上のために役立てる。

教師への意識調査では、授業を進めていく上で場所や用具の制限が減ると良いという意見が複数出された。効率良く授業が進められるよう、年間指導計画の見直しを行う必要がある。また、体育の展開例の継続的活用や更なる充実を求める意見が複数出された。実践を通し、本校には知的・物的財産が多くできあがった。これを今後、多くの学校で活用してもらえるような手立てを考えていく必要がある。

大学教員及び教師志望の大学生を体育・保健体育の授業に活用した「走運動プログラム」開発及び実践事例

団体名 長野県教育委員会

実施校数 23 校 実施児童生徒数 2,979 名

種目等 陸上運動系・陸上競技

(本事例に係る問合せ先)

電話番号 026(235)7448

E-mail sports-ka@pref.nagano.lg.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 全ての運動の基本となる「走運動」に特化した小・中学校の陸上競技の授業に活用できるプログラムを開発し、本県の体育指導に携わる教員の資質向上と児童生徒の体力向上を目指す。
- (2) 本県児童(小5男女)は「授業外における1週間の総運動時間(H28調査)」結果が全国最下位であるため、本事業で運動の楽しさを感じ、ひいては運動習慣の形成につなげたい。

2. 実践研究の概要

- (1) 子どもの体力向上支援委員会(有識者会議)を設置し、「走運動」の効果的な指導法について検討し、体育授業で活用できるプログラムを開発する。
- (2) 大学教員等が講習会実施校に出向き、開発したプログラムを直接児童に指導することを通して、教師の資質向上を図るとともに、児童生徒に運動の楽しさを体得させる。
- (3) 「走運動プログラム」指導DVDを作成、県内全小・中学校に配布し、指導法を普及する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 音楽に合わせて楽しく筋肉や関節を伸ばすことができるオリジナル体操を導入時に行うことで、心と体のストレッチにつなげた。
2. 大学教員による全体指導のほか、各グループには教師志望の大学生を配置し、きめ細やかな指導につなげた。
3. 児童・生徒にチェックカードを記入させ、学習の振り返りを行った。また、児童・生徒及び教師のアンケート結果を毎回大学教員にフィードバックし、講習会の改善へつなげた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1. 各グループに配置した大学生が、細部まで目を配り、安全に配慮した指示を行った。
2. テープやコーンを用い、運動時の児童生徒の動線を示した上で実践した。

○成果の意義と今後の課題

1. 成果

「走運動プログラム」指導DVDを作成し、県内全小・中学校に配布した。また、実践校で行ったアンケート結果(児童生徒、教師、保護者)から、本運動プログラムの有効性が確認できた。

2. 今後の課題

課題となっている「投運動」に特化した運動プログラムの開発、普及を検討していきたい。

○研究内容

【RUNRUN体操(オリジナル体操)で準備】

♪音楽♪によって心と体のストレッチ



【バトンを使って正しい腕振り】

バトンを使って、正しくスムーズな腕振り



【マーカーを使って自分に合ったストライド】

反力を意識した上で自分に合ったストライドの設定



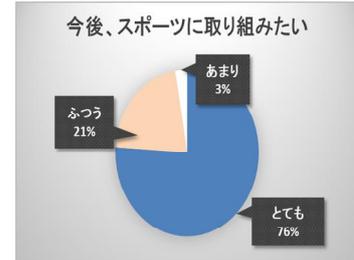
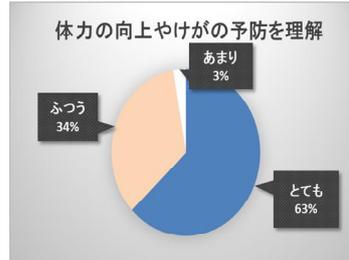
【重心の移動を意識したスタートダッシュ】

一歩目の足を確認し、ダッシュ！！



【事業実施後の児童・生徒のアンケート結果から】<実施校数 23 校 実施児童生徒数 2,979 名>

下記、質問3項目への回答として『とても』の割合が高く、本運動プログラムの有効性が確認できた。



【長野県版運動プログラムの普及と充実】

幼児期から中学生期までの成長段階に応じた「長野県版運動プログラム」の普及を図るとともに、今後は、「投運動」等、各運動領域に応じた運動プログラムの開発を検討していきたい。



2. 參考資料

各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課
各都道府県私立学校主管課
附属学校を置く各国立大学法人担当課
附属学校を置く各公立大学法人担当課 御中
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を
受けた各地方公共団体担当課

スポーツ庁政策課学校体育室

保健体育科における武道の安全管理の徹底について（依頼）

保健体育科の授業における武道の安全かつ円滑な実施については、平成24年3月9日付け23文科ス第918号「新しい学習指導要領の実施に伴う武道の授業の安全かつ円滑な実施について（依頼）」(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1318536.htm)においても対応をお願いしているところです。特に、柔道を行う各学校については、平成24年3月9日付け23文科ス第910号「武道必修化に伴う柔道の安全管理の徹底について（依頼）」(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1318538.htm)において、さらなる安全管理の徹底を依頼するとともに、毎年「柔道の指導体制に関する状況調査」を実施し、全国の取組状況を確認してきております。

平成29年3月に公示しました新中学校学習指導要領において、保健体育科における武道の充実を図ることを踏まえ、学校や地域の実態に応じて種目が選択できるよう内容の弾力化が図られている中、本年度は、各学校における取組について、武道の授業の開始前に別添を御確認いただき、安全に指導できる体制整備の取組の徹底を図るとともに、その取組状況について実施要領（別紙1）に基づき、御提出頂きますようお願いいたします。

このことについて、各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課におかれては所管の中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校中学部を含む。以下同じ。）及び域内の市町村教育委員会等に対して、各都道府県私学担当主管課及び中学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法（平成14年法律第189号）第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の担当課におかれては、所轄の中学校に対して、各国立大学・公立大学法人担当課におかれては附属の中学校に対して、上記通知の周知及び保健体育科における武道の安全管理に係る適切な対応がなされるよう御指導いただくとともに、調査結果の取りまとめ及び提出をお願いいたします。

（本件問合せ先）

スポーツ庁政策課学校体育室 指導係 原、比嘉 電 話 03-6734-2674 ファクシミリ 03-6734-3790 電子メール staiiku@mext.go.jp
--

武道の指導体制にかかる確認事項

（「武道必修化に伴う柔道の安全管理の徹底について（依頼）」平成24年3月9日付け23文科ス第910号
『柔道の指導体制にかかる確認事項』参照）

（1）指導者について

イ）平成30年度に武道の授業を開始する時点^{※1}において、一定の指導歴^{※2}や研修受講歴を持った教師が指導に当たることができる体制^{※3}になっているか。

※1 実際に授業の開始を予定している時点であり、年度当初の4月とは限らない。

※2 一定の指導歴を持った教師であっても、平成20年の学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた武道の授業に関する研修を受講していることが望ましい。

※3 例えば、複数の担当教師がいる学校で、一定の指導歴や研修歴を持たない教師が単独で授業を担当する場合は「指導に当たることができる体制」に該当しないが、当該教員が今後授業開始までに適切な研修を受ける予定の場合は該当すると考えられる。

ロ）イ）の体制が確保できない場合、適切な外部指導者の協力を得ることになっているか。

【留意点】

指導者が一定の指導歴や研修受講歴を持たない教師である場合は、教育委員会や武道関係団体にある人材データバンク等を活用し、例えば、武道の指導に関する専門性を有する退職警察官等外部指導者の協力を得ること。また、一定の指導歴や研修受講歴を持たない教師については、授業の開始時点までに必要十分に研修の機会を確保すること。

（2）指導計画について

3年間の指導を見通した上で、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分に留意した計画となっているか。

【留意点】

特に柔道については、「柔道の授業の安全な実施に向けて」（平成24年3月）、学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引（三訂版）」（平成25年3月）を踏まえ、安全に柔道の指導を行う観点から特に以下の点について配慮が求められること。

① 3年間の指導を見通した上で、各学年で適切な授業時数を配当し、効果的、継続的な学習ができるようにすること。

第1学年及び第2学年においては、受け身の練習を段階的かつ十分に行った上で、指導する技や時期を定め、技と関連させた受け身の指導を行うこと。また、受け身がとれるようになった後、投げ技のかかり練習や約束練習など、段階的に練習を行うこと。その際、固め技について自由練習やごく簡単な試合で攻防の楽しさを味わわせることが考えられること。

さらに、第3学年においては、生徒の技能の上達の程度等を踏まえ、安全上の配慮を十分に行った状態で、使用する技や時間を限定するなどして簡単な試合までを計画することも考えられること。

② 生徒の学習段階や個人差を踏まえた無理のない段階的な指導を行うこと。

なお、学習指導要領の解説で示している「大外刈り」などの技については、あくまでも例示であり、記載された全ての技を取り扱わなければならないものではないこと。

(3) 施設設備等について

施設設備及び用具の安全が確保されているか。特に体育館を使用する場合は、例えば畳のずれを防ぐ措置、床板のささくれなどの武道を行う場の安全が確保されているか。また、使用する用具等に欠陥がないか確認をしているか。

【留意点】

十分でない場合は、早急に施設設備及び用具の安全の確保策を講じること。

(4) 事故が発生した場合の対応について

事故が発生した場合の応急処置や緊急連絡体制など、対処方法について関係者間で認識を共有しているか。

【留意点】

十分でない場合は、早急に事故が発生した場合に対応できる体制を整備すること。

以上について、適切な対応をお願いします。また、授業の実施までに安全管理に関する問題点が判明した場合には、無理な計画での授業を行わないようお願いします。

